

総合図書館 清教リブラリア

2025 年度 事業報告

- ・ 学外イベント中高生のための探究学習・調べる学習ひろば 開催
- ・ 有志活動「アカデミカ」8年目。図書館での探究活動を通じた進路開拓続く
年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現
- ・ さん(高3)が探究論文で優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞
- ・ さん(高1)が郷土史研究で弘前大学 太宰治記念「津軽賞」最優秀賞
- ・ さん(高1)、 さん(高1)、 さん(高1)が
高校生国際シンポジウム出場
- ・ 常設展示「清教学園の棚」設置
- ・ 卒業記念インタビュー：高3生が清教学園図書館での学びを振り返る





さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

マタイによる福音書（4章 1-4節）

目次

I トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4

学外イベント「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」開催
有志活動「アカデミカ」8年目。図書館での探究活動を通じた進路開拓続く
年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現
 さん(高3)が探究論文で優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞、他3名が入賞・入選
 さん(高1)が郷土史研究で太宰治記念「津軽賞」を受賞
 さん(高1)、 さん(高1)、 さん(高1)が高校生国際シンポジウム出場
常設展示「清教学園の棚」設置

II 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.6

III 資料統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.7

IV 利用統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9

V 2025年度の記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.12

学外イベント「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」開催
有志活動「アカデミカ」8年目。探究活動を通じた進路開拓続く
年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現
[第30回 図書館を使った調べる学習コンクール]
[弘前大学 太宰治記念 第5回地域探究論文 高校生コンテスト「津軽賞」]
[第11回高校生国際シンポジウム]
[大阪府統計グラフコンクール]
[第10回 大阪府高生ビブリオバトル大会]
常設展示「清教学園の棚」を設置
卒業生・大学院生 さんが卒業論文の授業にTAとして参加(制度2年目)
EDIX 東京に さん(高3)・ さん(高3)が登壇
中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2025」を開催(2年目)
定例の図書館展示・企画・イベント(テーマ展示9件/特集展示29件/企画・イベント22件)
[写真集] 2025年度 図書館の日常、授業やイベントの様子
訪問者 110件 203名
筑波大学・立命館大学・関西大学の学術研究調査対象としてリブラリアが協力
[その他の記録] (研修参加8件 / 寄稿依頼9件 / 学外講演登壇等 31件・参加者 820名)

VI 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.29

高校の探究学習カリキュラム改編で利用増、蔵書の拡充が急務
配架スペースの不足を補う書架の増設
Teaching Assistant 導入の可能性

VII 清教学園図書館リブラリアのあゆみ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.30

【巻末特集1】 図書館登校生徒の記録[2016～2025年]：10年のまとめ・・・・・・・・ p.32

【巻末特集2】 卒業記念インタビュー：高3生が清教学園図書館での学びを振り返る・・・・・・・・ p.33

Ⅰ トピックス

学外イベント「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」開催 (p.12)

様々な学校の中高生が探究学習の成果を発表する企画「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」を、清教学園主催で3/20(金)に実施。本校の有志中高生はもちろん、全国から38組の中高生が大阪市立中央図書館5階 大会議室に集まりました。参観者を含む来場者は170名でした。参加要件が「興味をテーマに探究学習をしていること」だったことから、自身の興味・関心でテーマを選んだ生徒が集結。多様な文献調査と、実験観察・社会調査といったフィールドワークが報告されました。発表や質疑応答は和気藹々とし、中高生のユニークな研究発表に関心が集まっていました。「似た分野の生徒を見つけて友だちになれた」「他校の生徒の探究活動、とくに多様なテーマに挑戦する姿に刺激を受けた」「来年も絶対参加したい」「中高生の探究学習を見守る大人の雰囲気が大変よかった」「それぞれの生徒が興味を持った自身のテーマに、本気で取り組む様子が頼もしかった」などのコメントも。次年度開催や新たな展開を示唆するものとなりました。



有志活動「アカデミカ」8年目。図書館での探究活動を通じた進路開拓続く

年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現 (p.13 / p.33-)

生徒が2017年に立ち上げた有志探究クラブ「アカデミカ」は8年目に。今年も図書館での探究活動が多様な進路に繋がりました。立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部、筑波大学 人文文化学群、電気通信大学、関西大学 商学部など、いずれの生徒も学校図書館での探究活動や論文執筆、それらの経験を踏まえた大学研究との接続が評価・期待され、総合型選抜など各種推薦方式での合格を果たしました。「自己の在り方・生き方を考える」(文部科学省学習指導要領「総合的な探究の時間」)を地で行く、生徒の興味関心を大切に探究学習・図書館教育が結果として進学実績にも結び付いた形です。

また、上記4名の高3生による、中学3年卒業論文「なんでやねん」のTeaching Assistantも実現。2学期後半から3学期にかけて授業担当者とともに中3の授業に入り、生徒の論文の添削・面談・口頭発表へのコメントといった学習支援を担ってくれました。高3生の的確なアドバイスで中3の研究がよりよいものになったのはもちろん、先輩たちの探究学習経験が進路開拓のモデルケースとして中3生に実感されていました。



さん(高3)が探究論文で優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞。ほか3名が入賞・入選 (p.14)

「女子サッカーの持続可能な発展」をテーマに研究した さんが、小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では登竜門的な位置づけである「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募。「優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞」を受賞しました。論文の授業がない高校入学生(3年コース)ながらも、6年コースの生徒に触発されてアカデミカに参加。約2年かけて「女子サッカー」「スポーツ経営」「ジェンダー」といったキーワードで研究活動を続けました。様々な分野を横断的に学び、自身の研究テーマに結びつけたこと、豊富な参考文献の渉猟、ジュニア女子サッカープレイヤーや、選手育成を担う教員といった当事者へのインタビュー調査、スポーツ経営と社会企業の提案などが評価され優秀賞に。女子プレイヤーとしての自身の挫折経験が探究活動として昇華された見事な研究論文を、図書館の蔵書として残してくれました。



ほかに、 さん(高1)がピクトグラム研究で奨励賞、 さん(高1)がK-POP ファンダムの「自発的な推し活行動」で奨励賞。 さん(高1)が点字ブロック研究で佳作となりました。

さん(高1)が郷土史研究で太宰治記念「津軽賞」を受賞 (p.15)

妖怪や民俗学を研究する さんは、出身の富田林市に伝わる「龍泉寺の悪竜伝説」を調査。清教学園図書館や大阪府各地の公共図書館での郷土資料を中心とした文献調査や現地フィールドワークにより、郷土に伝わる伝説と地理的な背景、人々の生業との関連を分析。「郷土の伝説が、歴史、地理、産業に至る一連の流れから郷土の文化の形成として結実された見事な論文」「郷土を愛した太宰の名を冠する『津軽賞』に相応しい」との審査員評価を受け、最優秀賞である「津軽賞」を受賞しました。



さん(高1)、 さん(高1)、 さん(高1)が高校生国際シンポジウム出場 (p.15)

探究学習の成果発表機会「高校生国際シンポジウム」に、清教生が初挑戦。31都道府県から130校415件の応募があった中、アカデミカの高校1年生3名が予選を突破、全国大会に出場しました。いずれも高校から清教学園に入学した生徒ですが、図書館をよく活用し研究を進めました。



絵本の読み聞かせとグリム童話の不条理の関連を問うた さん、江戸の版本流布と水木しげるの漫画により妖怪イメージが固定化されていった背景を掘り下げた さん、大戦間期のコミンテルンとバルカン諸国共産党との関係性を追いかけた さんの3名とも、豊富な文献の渉猟とユニークなテーマ設定が評価され、2月18・19日に鹿児島市内での発表機会を得ました。

常設展示「清教学園の棚」設置 (p.16)

清教学園図書館には、学園の歴史やゆかりの人々に関する蔵書もたくさんあります。それらに河内長野市近辺の郷土資料を加え、「清教学園の棚」として新設しました。本校創設者の一人である中山昇先生、清教学園図書館の教育基盤をつくり2025年に退職された片岡則夫先生、研究者になった卒業生の著作などを展示。制服の変遷を見て驚いている生徒や、2016年の降誕劇の記事に興味深げに読んでいる生徒などなど…。生徒や教職員だけでなく、来客者にも清教学園のことを知ってもらえたらと思います。



II 施設概要

名称：総合図書館 清教リブラリア

所在地：〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

Tel：0721-62-6828

代表者：理事長・チャプレン：井上良作 中学高校・校長：森野章二

中学高校・副校長：菊岡秀行 中学・教頭：西村優子 高校・教頭：慎繁範

スタッフ：南百合絵（探究科教諭・司書教諭）山崎勇氣（探究科教諭・専任司書）

上河博美（常勤司書）前野昌子（非常勤司書）山根美智子（嘱託司書）

片岡則夫（名誉館長・学校評議員）

生徒数：中学校 455名（1年153名 2年154名 3年148名）

高等学校 1308名（1年445名 2年461名 3年402名）

総生徒数 1763名（昨年度1768名）

職員数 141名（昨年度148名）利用者合計 1904名（昨年度1916名）

学級数：中学12学級 高校34学級 合計46学級

設置：2002年4月（「総合図書館清教リブラリア」として現在の場所で開館）

図書館：床面積/約256㎡（カウンター・司書室を含む） 座席数/16席

書庫（スタディホール・ホール上）

業務端末 / 7台 生徒検索端末 / 2台 無線LAN

蔵書管理システム/LibMax（ソフテック）

図書館発注システム/TOOLi-S（TRC）

総合学習室：床面積/約98.2㎡

座席数/40席 生徒用PC/45台 無線LAN

スタディホール：座席数/98席 無線LAN

ラーニングcommons：座席数/96席

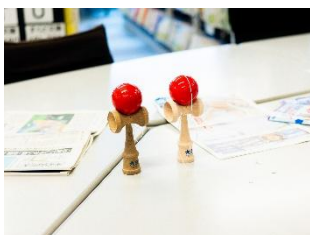
公式HP・OPAC・SNS：

HP：<https://libraria.seikyo.ed.jp/>

OPAC：<https://www.lib-eye.net/seikyogakuen/>

X(旧ツイッター)：[@seikyolibraria](https://twitter.com/seikyolibraria)

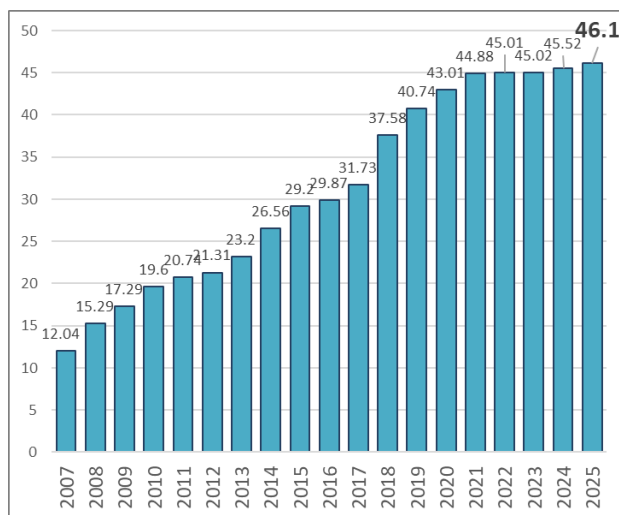
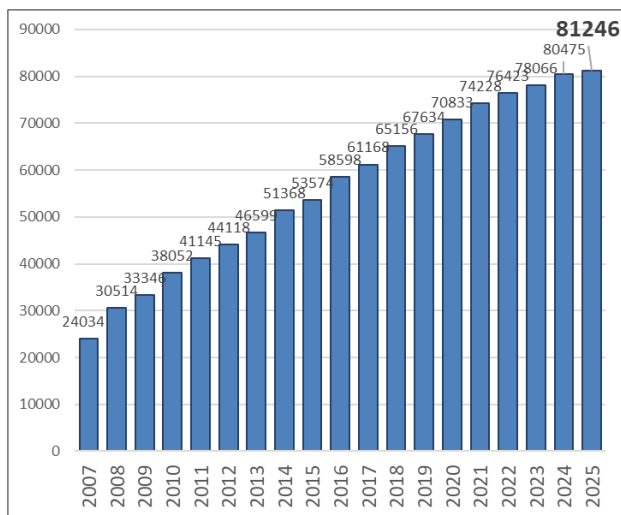
Instagram：<https://www.instagram.com/seikyolibraria/> (@seikyolibraria)



III 資料統計

総資料数は 81246 点：生徒 1 人当たり 46.1 点で微増

本年度リブラリアの総資料数は 81246 点となりました。資料数・利用数増に伴い、長年にわたり提案している図書館書架の大規模な増築・レイアウト変更が強く求められる状況が続いています。また、生徒 1 人あたりの資料数は生徒増と廃棄数増が影響して微増となりました。図書館のキャパシティの問題による廃棄目標数達成のため、厳しい選定が続いています。



総資料点数の推移

生徒一人当たりの資料点数の推移

1. 購入図書点数 3114 点

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
冊数	86	115	403	609	342	270	218	363	66	608	34	3114
%	2.8	3.7	12.9	19.6	11.0	8.7	7.0	11.7	2.1	19.5	1.1	100.0

2. 購入視聴覚数 0 点

3. 寄贈図書 192 点

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
一般寄贈	1	0	12	3	1	8	4	5	2	5	8	49
PTA 学級図書費	2	6	1	14	4	2	2	26	1	81	4	143
冊数	3	6	13	17	5	10	6	31	3	86	12	192

4. 弁償本 3 点

5. 生徒作品（卒業論文等） 160 点

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
冊数	4	10	6	22	17	19	20	38	5	16	3	160

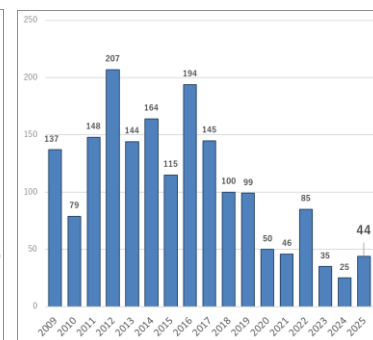
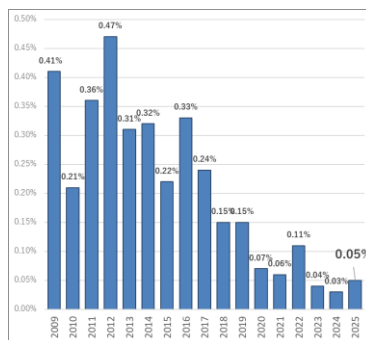
6. 総受入数 3472 点

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが 絵本他	合計
冊数	93	131	422	648	364	299	246	434	74	712	49	3472

7. 紛失資料数と紛失率 44点・0.05%

年間紛失率 = 年間紛失点数 ÷ 蔵書点数 × 100

今年度被害額 = 59071 円



8. 廃棄数 1902点（昨年度 1838点）

9. 総蔵書数・蔵書構成 81246点

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本他	合計
生徒作品	80	55	87	313	381	401	374	516	70	67	3	2347
寄贈	265	369	460	711	620	230	170	694	327	4305	900	9051
蔵書合計	2178	3820	5549	10811	10129	6280	5162	9862	2037	22844	2574	81246
%	2.7	4.7	6.8	13.3	12.5	7.7	6.4	12.1	2.5	28.1	3.2	100.0

※生徒作品には授業テキスト・事業報告等を含む。まんが・絵本他には視聴覚資料を含む

10. 生徒一人あたりの平均蔵書数 46.1点（昨年度 45.5点）

11. 教室設置図書（すくどの本）の冊数 491冊

分類	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが絵本	合計
中学12学級	6	8	2	25	27	3	7	14	14	220	4	330
高校9学級	3	9	9	20	11	2	1	1	6	98	1	161
合計	9	17	11	45	38	5	8	15	20	318	5	491

12. 教室設置図書（すくどの本）の紛失数

中学 18冊、高校 9冊、計 27冊（昨年度 38冊）全体に対する紛失率 5.4%

13. 雑誌 購入 21誌・寄贈 2誌

アニメージュ	オレンジページ（隔週）	東洋経済	学校図書館
鉄道ジャーナル	進学通信（関西版）	私立中高進学通信	Number
ダ・ヴィンチ	THE BIG ISSUE JAPAN	日経エンタテイメント	MOE
月刊ピアノ	ナショナル・ジグザグティック日本版	Newsがわかる	スクリーン
mg（エムジー）	ロッキング・オン・ジャパン	声優グランプリ	Newton
（季刊）うかたま	JICA's MAGAZINE（寄贈）	ねこのきもち（寄贈）	—

14. 新聞 購入 3誌

読売新聞	毎日新聞	the japan times
------	------	-----------------

15. データベース 4件

朝日けんさくくん / 50ライセンス	ジャパンレレッジ Lib / 1ライセンス（職員用）
河内長野市立電子図書館 / 生徒+教職員全員	日本統計センター-Miena's Labo / 40ライセンス

IV 利用統計

貸出点数 中学は増加、堅調だった高校生の利用が減少に転じる

2025年度の1人あたり年間貸出点数は全生徒で17.2点/年となり、昨年度より0.9点減。中学が43.7点/年と3.2点の増。一方で高校は7.9点/年と2.5点の減となり、過去最高を記録した昨年度から大きく減少しました。「学校図書館の現状に関する調査」(文科省,令和2年度)によると、全国平均は中学9冊、高校3冊です。近年の探究カリキュラム改訂で高校生の利用が堅調に伸びていた一方、今年度に減少した原因は、授業担当者との連携不足が原因の一つと考えられます。総貸出点数は34957点で昨年度に比べて433点減少。こちらも高校生の利用減が要因です。授業設計次第で図書館利用に影響が出る状況が浮き彫りになりました。1年間に1冊も借りない「未貸出者」も懸案事項。昨年に引き続き学校全体としては20%台に留めることができていますが、高3生の未貸出率40.4%が依然として課題です。

開館時間：月曜日～土曜日 8：10～18：00 ※長期休暇中は別に定める

開館日数：277日（前年度272日）

図書館授業利用時間：

【総合学習室】12時間/週

中1～3年総合：各4クラス

【ラーニングコモンズ】17時間/週

中3オンライン英会話：4クラス、高2キリスト教概論（Global Studies II）：13クラス

【スタディホール】12時間/週

高1地理総合（Global Studies I）：12クラス その他（美術の資料探し、保健など）

貸出方法・期間 貸出点数：20点まで／貸出期間：14日以内 ※長期休暇中は別に定める

年間総貸出点数 34957点（昨年度35390点）

利用者1人あたりの貸出点数 [貸出密度]（ ）は前年度

全生徒 17.2点/年（18.1点/年）↓

中学生 43.7点/年（40.5点/年）↑

高校生 7.9点/年（10.4点/年）↓

職員 11.4点/年（9.6点/年）↑

開館日1日あたりの貸出点数：124.7点（前年度130.3点）

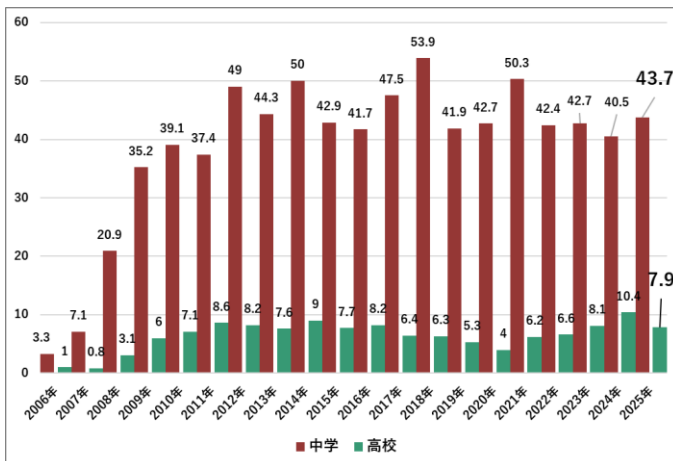
蔵書1点あたりの平均貸出回数 [蔵書回転率]（年間貸出点数÷全蔵書点数）：0.43回（前年度0.44回）

新しい本が図書館にどの程度入ったか [蔵書新鮮度]：4.2%（前年度4.4%）

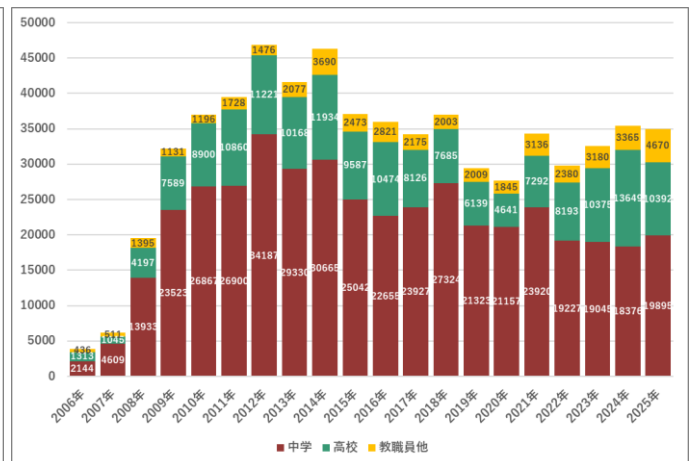
（蔵書新鮮度＝その年の蔵書受入点数÷全蔵書点数×100：数値が高いほど書架に新しい本が多い）

複写申請数 44件（昨年度39件）複合機によるデジタルスキャンの利用増加で減少継続

他館借受本 153点（昨年度246点）河内長野図書館他



生徒1人当たりの年間貸出点数の推移



年間総貸出点数の推移

年間貸出統計 [2025 年度]

	中 1	中 2	中 3	中学生 貸出合計	高 1	高 2	高 3	高校生 貸出合計	職員	幼稚園	教科 他	総貸 出数	開館 日数	1日 平均	予約/ リクエスト
4月	1426	190	1394	3010	445	380	198	1023	136	0	164	4333	24	180.5	85
5月	445	79	1039	1563	257	935	201	1393	226	0	825	4007	23	174.2	184
6月	1022	139	1347	2508	251	603	239	1093	150	139	537	4427	24	184.5	132
7月	533	180	1181	1894	278	309	336	923	200	0	153	3170	24	132.1	124
8月	209	32	141	382	89	137	131	357	182	0	1	922	22	41.9	34
9月	419	67	1210	1696	202	166	284	652	167	0	348	2863	24	119.3	81
10月	213	373	528	1114	649	249	278	1176	101	0	464	2855	25	114.2	54
11月	395	801	1083	2279	808	173	215	1196	122	66	197	3860	23	167.8	163
12月	226	558	1281	2065	583	233	117	933	95	0	101	3194	24	133.1	106
1月	204	746	569	1519	419	170	62	651	103	0	3	2276	23	99	53
2月	84	266	314	664	267	119	92	478	41	50	12	1245	16	77.8	31
3月	263	601	337	1201	272	168	77	517	87	0	0	1805	25	72.2	49
集計	5439	4032	10424	19895	4520	3642	2230	10392	1610	255	2805	34957	277	124.7	1096

分類別貸出点数と回転率

	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	視聴覚	絵本	マンガ	その他	合計
貸出 冊数	1062	1639	1540	5219	4704	2102	2684	5303	1003	8325	10	205	1013	148	34957
分類別 回転率	0.49	0.43	0.28	0.48	0.46	0.33	0.52	0.54	0.49	0.36	0.53				0.43
蔵書 回転率	0.01	0.02	0.02	0.06	0.06	0.03	0.03	0.07	0.01	0.10	0.02				

※ 「蔵書回転率」は蔵書1点あたりの平均貸出回数（蔵書回転率＝年間貸出数÷全蔵書数）
 ※ その他は他館からの借受本など。

すくど文庫の分類別蔵書・貸出統計

	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	絵本 ほか	合計
蔵書冊数	62	95	92	248	336	91	104	194	57	1885	10	3174
貸出冊数	42	56	45	141	150	43	23	75	21	805	5	1406
回転率	0.01	0.02	0.01	0.04	0.05	0.01	0.01	0.02	0.01	0.25	0.00	0.44

未貸出者率（1年間に貸出がなかった生徒職員の人数と割合）

	教職員	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	全体
貸出(0人)	99	0	3	3	36	103	162	406
総数(人)	141	153	154	148	445	461	401	1903
割合(%)	70.2	0.0	1.9	2.0	8.1	22.3	40.4	21.3

図書館登校生徒の状況（ ）内は前年度。過去10年間のまとめを p.32 にて分析しています。

利用生徒：22名（17名）

（中1：6名 中2：6名 中3：2名 合計：14名）

（高1：3名 高2：4名 高3：1名 合計：8名）

長期休暇中の利用 10:00～15:00 で開館

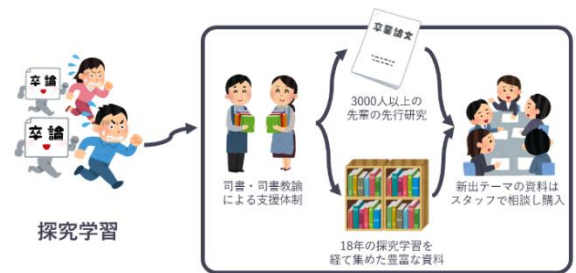
() 内は前年度

開館日数：35日 (37日)
 入館者数：1260人 (1320人)
 貸出点数：621点 (533点)
 返却点数：696点 (475点)
 1日あたりの入館者数：36人 (36人)
 1日あたりの貸出点数：17.7点 (14.4点)
 1日あたりの返却点数：19.8点 (12点)

	夏期	冬期	春期	合計
開館日数	16	7	12	35
利用者(中)	362	52	39	453
利用者(高)	448	76	42	566
利用者(職)	64	16	39	119
見学者	112	5	5	122
総入館者数	986	149	125	1260
貸出点数	450	64	107	621
返却点数	434	125	137	696
予約・リクエスト	16	6	4	26

授業支援 & アウトリーチサービス

2025年度の授業支援(=図書館併設教室利用率)は、週当たり36コマ中、35コマ。97.2%でした。探究学習の授業を中心に、図書館併設教室で授業が実施され、スタッフが参考文献やテーマの相談に応じました。



- 中1 総合学習：「おためし読書」「はじめての探究学習」等 × 4クラス / 1単位
- 中2 総合学習：「卒業論文への助走」等 × 4クラス / 1単位
- 中3 総合学習：「卒業論文『なんでやねん』」 × 4クラス / 1単位
- 高1 地理総合：「Global Studies I」 × 11クラス / 1単位
- 高2 聖書科：「Global Studies II」 × 12クラス / 1単位

学級文庫「すくどの本」 中学3学年 全12クラス / 高校9クラス(希望制)

教室の学級文庫選書と運営を図書館が請け負うサービス、通称「すくどの本」。中学は全クラス、高校は希望制で運用しています。司書と生徒が選書した20~24冊の本を定期試験ごとに巡回させ、各クラスに年間100冊あまりの本が届けられました。



「朝の読書」出張おためし読書 高校34クラス

(ノンフィクション編 貸出254冊 貸出人数224人 / フィクション編 貸出162冊 貸出人数136人)

朝の読書の時間を利用し、1学期に「出張おためし読書 ノンフィクション編」を実施。高校3学年、全34クラスを日替わりで巡回しました。前日の放課後に、司書が選書したノンフィクション図書を生徒の机の上に並べ、生徒は読みたいと思った本を選び、ためし読みします。その場で貸出も行い、生徒の貸出人数は216人、貸出冊数は242冊となりました。教員の貸出人数は8人、貸出冊数は12冊でした。さらに生徒のリクエストにこたえて、今年度はじめて「フィクション編」も実施。生徒の貸出人数は132人、貸出冊数は154冊。教員の貸出人数は4人、貸出冊数は8冊でした。定例のアウトリーチサービスとして定着し、利用促進に繋がっています。



V 2025 年度の記録

中高生のための探究学習・調べる学習ひろば 開催

関西圏を中心に、様々な学校の中高生が探究学習の成果を発表する企画「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」を、3/20 春分の日に大阪市立中央図書館5階大会議室で実施しました。主催は清教学園図書館、協賛に(財)図書館振興財団や(株)ネットアドバンス(「ジャパンナレッジ」開発元)、各校で探究学習の指導を担当する教職員や司書、生徒の皆さんも運営に協力して下さいました。



清教学園の有志中高生はもちろん、全国から38組の中高生が参加してポスター発表を実施。参観者を含む来場者は170名でした。参加要件が「興味をテーマに探究学習をしていること」だったことから、清教学園中学の卒業論文や、高校有志アカデミカ同様、自身の興味・関心でテーマを選んでいる生徒が各地から集結。多様な文献調査と、実験観察・社会調査といったフィールドワークによる探究成果が報告されました。発表や質疑応答は和気藹々とし、中高生のユニークな研究発表を参観に来た大人の関心も集まっていました。

企画に対する参観者の反応も上々。「似た分野の生徒を見つけて友だちになることができた」「他校の生徒の探究活動、とくに多様なテーマに挑戦する姿に刺激を受けた」「来年も絶対参加したい」といった生徒どうしのコメントや、「中高生の探究学習を見守る大人の雰囲気が大変よかった」「しっかりした研究であることはもちろん、それぞれの生徒が興味を持った自身のテーマに、本気で取り組む様子が大変頼もしかった」など大人のコメントも。次年度の開催や新たな展開を示唆するものとなりました。



**有志活動「アカデミカ」8年目。探究活動を通じた進路開拓続く
年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現**

「高校でも探究的な学びに挑戦したい」と、生徒が2017年に立ち上げた有志活動「清教アカデミカ」。図書館スタッフが取りまとめながら8年間活動を継続しており、今年も図書館での探究活動が多様な進路に繋がりました。

中高一貫して「ハワイ史」「帝国主義政策」「観光・資本主義」をキーワードに研究してきた さんは、国際色豊かな場で学びたいと志望し、立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部に進学。同じく中学卒業論文から高校にかけて「動物倫理」「宗教・現代思想」「聖性・供儀」をテーマに文献を渉猟してきた さんは、人文科学分野の知見をさらに深めたいと志し筑波大学・人文文化学群へ。「ネット文化と著作権」「コンピュータによるデザイン・表現」をテーマにしてきた さんは、さらに表現技術を学びたいと電気通信大学に。中3卒論の授業を履修していないながらも、「女子サッカー」「スポーツ経営」「ジェンダー」をテーマに自主研究をした3年コース生の さんは、社会起業により課題にアプローチしたいと志し関西大学商学部へと進学しました。いずれの生徒も学校図書館での探究活動や論文執筆、それらの経験を踏まえた大学研究との接続が評価・期待され、総合型選抜など各種推薦方式での合格を果たしました。生徒自身の多様な興味関心に、多様な蔵書で応えられるのが清教学園の学校図書館です。探究学習の課題設定、「自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」(文科省『高等学校指導要領：総合的な探究の時間』)を体現する教育活動が、実際に目に見える形で、成果として結実しました。本稿 p.33 では、彼らへのインタビュー記事を掲載しています。

また、上記4名の高3生による、中学3年卒業論文「なんでやねん」の Teaching Assistant も実現。2学期後半から3学期にかけて授業担当者とともに中3の授業に入り、生徒の論文の添削・面談・口頭発表へのコメントといった学習支援を担ってくれました。的確なアドバイスによって中3生の研究がさらによいものになったのはもちろん、先輩たちの探究学習経験が進路開拓のモデルケースとして中3生に実感されていました。

代表・ さんのコメント：「自分一人では得られなかった『賜物』」

清教学園は勉学・部活動・課外活動など、異なる軸を持つ生徒に対して、広く門戸が開かれていると感じます。私もそのような環境の中で、勉学と探究活動を軸に向学心を引き出され、成長してきました。中学時代に取り組んでいた探究学習を、高校進学後も有志の探究活動クラブ「清教アカデミカ」に所属して継続し、人と動物の関係性を、民俗学・宗教学・文化人類学といった多様な視点から研究しました。特に図書館リブラリアでの先生方や多くの書物との出会いは、志望校の決定や合格へと導いてくれただけでなく、人格の形成に加え、価値観をも育んでくれました。清教学園で得た「賜物」は、現在の私を支え、将来へと繋がる確かな礎となっています。(学園広報誌より引用)



[第 30 回 図書館を使った調べる学習コンクール] 主催：公益財団法人 図書館振興財団

さん(高 3)	優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞	「女子サッカーの持続可能な発展に向けて」
さん(高 1)	奨励賞	「どのようなピクトグラムがよりよい情報伝達を生むか」
さん(高 1)	奨励賞	「K-POP をめぐる SNS 上のムーブメントはどのように発生したか」
さん(高 1)	佳作	「なぜ点字ブロックにはガイドラインと実際の敷設状況に差が生じるのか」

「図書館を使った調べる学習コンクール」は、小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では、登竜門の位置づけです。清教学園からは中学 3 年次の総合学習で卒業論文を書いた生徒や、図書館が有志を募って指導する研究サークル「清教アカデミカ」のメンバーが毎年応募しています。2025 年度は全国から 12 万 7 千 400 点の応募がありました。



「優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞」を受賞したさんは、論文の書き方について学ぶ授業がない高校入学生(3 年コース)ながらも、他の 6 年コースの生徒に触発されて

アカデミカに参加。約 2 年かけて「女子サッカー」「スポーツ経営」「ジェンダー」といったキーワードで研究活動を続けました。様々な分野を横断的に学び、自身の研究テーマに結びつけたこと、豊富な参考文献の渉猟、ジュニア女子サッカープレイヤーや、選手育成を担う教員といった当事者へのインタビュー調査、スポーツ経営と社会企業の提案などが評価され優秀賞に。3 月 7 日に東京・上野精養軒にて開催された表彰式にも招待されました。女子プレイヤーとしての自身の挫折経験が探究活動として昇華された、見事な研究論文を図書館の蔵書として残してくれました。

ほかに、同じくアカデミカに所属し中学 3 年次の卒業論文をさらにブラッシュアップしたさんがピクトグラム研究で奨励賞。2020 年の東京オリンピックでピクトグラム制作を担当された方への取材や、各国文化圏におけるピクトグラム受容の比較調査を行いました。文献調査においても、ただピクトグラムを調べるだけにとどまらず、ソーシャル言語学や異文化におけるイメージ受容の異なりなど、多様な分野の参考文献を組み合わせた論文となりました。

6 年コース生として中学 3 年次に完成させた卒業論文を出品したさんは、K-POP のファンダムにおける「自発的な推し活行動」に注目し SNS の投稿を分析。同じく 6 年コースさんは、点字ブロックの敷設ガイドラインと実際の敷設状況を緻密なフィールドワークで調査しました。

代表・さんのコメント

研究を通して新たな人と出会い、多くの視点や考え方に触れられたことが財産になりました。周囲から助言をいただきながら活動を続けた結果、受賞という形で評価していただきました。私は決して勤勉な性格ではありませんが、好きなことにのめり込み、一生懸命取り組む喜びを知りました。友達や先輩から多くの助言をいただき、研究面だけでなく人間的にも成長させてもらえた研究活動でした。自分が本当に興味を持てるものに出会えたこの時間に感謝し、この経験で得た自信を次のステージにつなげ、さらに学びを深めていきたいと思っています。

(学園広報誌より引用)



[弘前大学 太宰治記念 第5回地域探究論文 高校生コンテスト「津軽賞」] 主催：弘前大学

さん(高1) **津軽賞(最優秀賞)**

龍泉寺「悪竜伝説」が物語る富田林の歴史と水資源との関係

「アカデミカ」メンバーとして、妖怪や民俗学について研究する さんは、出身の富田林市に伝わる「龍泉寺の悪竜伝説」に挑みました。清教学園図書館や、大阪府各地の公共図書館で郷土資料を中心に文献調査を実施。さらに龍泉寺や周辺地域へ赴いてのフィールドワークにより、郷土に伝わる伝説と地理的な背景、人々の生業との関連を分析。最優秀賞である「津軽賞」を受賞しました。



審査員講評では「文章は奇を衒わず平易でありながら読者の心に訴えるものがあり、写真がちりばめられた地図の掲載や文献検索も適切に行われている」「郷土の伝説が、歴史、地理、産業に至る一連の流れから郷土の文化の形成として結実された見事な論文」「郷土を愛した太宰の名を冠する『津軽賞』に相応しい」との評価。3月25日に弘前大学で実施された、表彰式と大学ツアーにも招待されました。

[第11回高校生国際シンポジウム] 主催：一般社団法人 Glocal Academy **全国大会出場**

さん(高1)「グリム童話『灰かぶり』の継母にみる母子の関係と子供の内的成熟」

さん(高1)「妖怪イメージの固定化が妖怪文化の継承にどのような影響をもたらしたか」

さん(高1)「コミンテルンの政策転換がバルカン社会主義連邦構想に失敗にどう影響したか」

探究学習の成果発表機会「高校生国際シンポジウム」に、清教生が初挑戦しました。同シンポジウムはテーマ自由、生徒自身の興味を重視、学術研究の評価基準に準拠するのが特徴。31都道府県から130校415件の応募があった中、アカデミカメンバーの高校1年生全員が予選を突破、全国大会に出場しました。いずれも高校から清教学園に入学した生徒ながら、図書館をよく活用し研究を進めてきました。



母親による絵本の読み聞かせと、グリム童話の不条理の関連を問うた さんは、発達心理学や読み聞かせ研究といった文献を組み合わせました。妖怪研究の

さんは、本来多様な姿が想像されていたはずの妖怪が、江戸の版本流布と水木しげるの漫画により姿形のイメージが固定化されていった背景を掘り下げました。

ユーゴスラヴィア研究の さんは大戦間期のコミンテルンとバルカン諸国共産党との関係性に焦点を絞り、レーニン全集・スターリン全集など多様な文献を比較しながら当時の動きを整理。3名とも豊富な文献の渉猟とテーマ設定が評価され、2月18・19日に鹿児島市内での発表機会を得ました。

当日は他校教員や生徒からも研究へのコメントや応援が飛ぶなど、ただ発表するだけでない交流の場に。何年も前に清教生がフィールドワーク先としてお世話になった、学術研究者の方からも3名の生徒に激励を頂きました。これまで本校の図書館で探究した数多の生徒と、現在探究する生徒の学び、人との繋がり、それに伴う図書館の成長が、一本の糸で繋がっている様が垣間見えました。

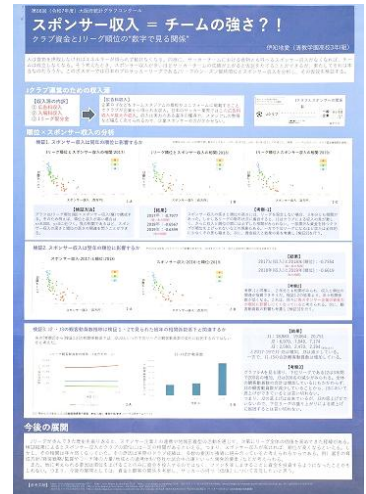


[大阪府統計グラフコンクール] 主催：大阪府統計課

さん(高3) **佳作**

アカデミカのメンバーとして女子サッカー選手のキャリアをテーマに研究する さんは、研究の過程でプロスポーツチームの経営に着目。スポンサー収入とチームの試合成績の相関を、Jリーグの試合結果・各チームが公開している収入データから分析しました。

コンクールとしては佳作に留まったものの、 さん自身はこの調査を通じて、プロスポーツチームの経営や興行の難しさ、それに基づく選手のキャリア問題に行きつき、進学先の学問分野も絞りました。統計的処理に基づく探究が、自身の進路を決定づけた一つの例と言えるでしょう。



[第10回 大阪府中高生ビブリオバトル大会] 主催：大阪府教育委員会

さん(高1) **大会出場**

バトラーが紹介した本から「一番読みたくなった本」に投票し、チャンプ本を決めるビブリオバトル。「みんなに自分の好きな本を勧めたい」と、幕間でバトラー同士が和気あいあいと本の話で盛り上がっていたのが印象的でした。たくさんの本、たくさんの人と出会えた大会でした。



さんのコメント

初めての経験で緊張しましたが、自分の大好きな作品を多くの人に知ってもらえたことがとてもうれしかったです。また、自分の読んだことのない本にたくさん出会うことができました。本を通じて、学年や学校の違いを超えて多くの人と関わることができ、本によって生まれるつながりの大きさを改めて実感しました。

常設展示「清教学園の棚」を設置

清教学園図書館には、学園の歴史やゆかりの人々に関する蔵書もたくさんあります。それらに河内長野市近辺の郷土資料を加え、「清教学園の棚」として常設展示を始めました。清教学園創設メンバーのお一人である、故 中山昇先生、清教学園図書館の図書館教育・探究学習指導の基盤をつくり 2025 年に退職された片岡剛夫先生、研究者になった卒業生の著作や、清教学園についての記述がある本・雑誌、学園の周年記念誌などを展示しています。制服の変遷を見て驚いている生徒や、2016 年の降誕劇の記事に興味深げに読んでいる生徒などなど…。生徒や教職員だけでなく、来客者にも清教学園のことを知ってもらえたらと思います。



卒業生・大学院生 さんが卒業論文の授業に TA として参加(制度 2 年目)

中高生の卒業論文に対する「TA(Teaching Assistant)」制度。昨年の卒業生 さん起用を皮切りに、今年も 2 年連続で実現できました。

関西学院大学 博士課程(言語学)に在学中の卒業生、 さんを採用。 さんは清教学園(旧)高校探究科を卒業後に関西学院大学へ進学し、その後は学部 4 年次に飛び級で大学院に入学するなど、探究学習畑を歩んできた卒業生です。2025 年度の 12 月から 3 月にかけて、後輩たちの論文指導に関わってくれました。中 3 卒業論文の授業や、有志の活動「アカデミカ」メンバーへの研究指導を担い、教員でも司書でもない存在として、中高生に様々なアドバイスをしてくれました。



EDIX 東京に さん(高 3)・ さん(高 3)が登壇

大学等で導入実績多数のデータベース「ジャパンナレッジ」開発元として有名な、(株)ネットアドバンスさまにご招待いただき、EDIX 東京 2025 (会場：東京ビッグサイト)に参加。スタッフが本校の探究学習を紹介し、 さん・ さんには図書館での探究学習経験や、データベースを使ったレファレンス資料の活用について語っていただきました。

会場には高校生の生の声を聴きたいとたくさんの方にお越しいただき、「高校生とは思えない研究内容に驚いた」「自分の興味で選んだ探究学習を、進路選択に結び付けていた点に感銘を受けた」「図書館が生徒の探究を支援できる体制が羨ましい」「図書資料と Web やデータベースの使いわけなど実際の話が印象的だった」などコメントが。生徒にとっても、大人の前で研究経験を語るよいきっかけになったようです。



中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 Fes.2025」を開催(2 年目)

昨年から中高合同に移行した探究学習の校内成果発表会「探究 Fes.2025」を、今年度もおなじ形式で 3/7(土)に実施。中 3・高 1・高 2 の 3 学年全員が発表と参観を行いました。高 3 生を除く 5 学年(1361 名)が参加。保護者のほか、学外来賓・参観者(32 名,p.24 に内訳)も参加し、文化祭・体育祭に次ぐ学校の一大イベントとなりました。今年から高校生の探究テーマが、社会課題(SDGs)から生徒の関心へと移行したことに伴い、継続して参加された有識者からのコメントでは「これまでより生徒の主体性がよく発揮されている」「研究のレベルは もちろん、生徒自身が研究に意欲をもって取り組んでいるのがわかる」などの講評を頂きました。

一人ひとりが興味あるテーマで論文を書く清教中学校と、グループで社会課題を学ぶ清教高校との間では、長らくカリキュラムの接続・連携が課題であり、高校の図書館活用実績も伸び悩んでいました。今回の発表会はここ数年の高校カリキュラム改訂が実り、いよいよ中高の探究学習が接続されはじめたかたちです。「賜物をいかす」清教学園のスクールモットーを体現した教育活動として、今後も生徒の興味が開くような教育活動・発表会を目指します。



定例の図書館展示・企画・イベント

テーマ展示と「図書館だより」/ 9 件

時期	テーマ	担当
4 月	ベストリーディング リブラリア人気の本	前野
5 月	怖い話	山根
6 月	感動の、恋・友情の、ミステリーの、冒険・ホラーの舞台は図書館	上河
7 月	卒業論文展示 (74 期中学生及び有志高校生作品)	山崎
9 月	パレスチナ イスラエル (高1 地理総合への案内も)	山崎
10 月	芸術の秋	前野
11 月	日本の伝説・伝承	上河
12 月	アイドル	南
2・3 月	絵本	山根

その他の特集展示・掲示 / 29 件

時期	テーマ	備考
4 月	図書委員 POP①	2024 年度図書委員の POP 展示
	天久鷹央の推理カルテ	ドラマスタート
5 月	中1 おためし読書 (フィクション編)	
	ホセ・ムヒカ追悼	ウルグアイ元大統領関連本
	海藻・海辺の生き物	中2 磯観察後学習
	中1 おためし読書 (ノンフィクション編)	
6 月	図書委員 POP①	
	吸い込まれそうな写真集	
7 月	吉田勝次氏の著書、洞窟の本	GlobalLecture 吉田勝次氏 オンライン講演会
	中1・中2 おはなし会で紹介した本	
	『ぬちどったから 木の上でくらす二年間』	映画『木の上の軍隊』
	大谷 晶『ババヤガの夜』	ダガー賞受賞
	図書委員 POP②	
	総合：おはなし会で紹介した本 (中1、中2)	
9 月	知恵の輪	
10 月	ノーベル賞化学賞、生理学・医学賞、文学賞	新聞記事、『ノーベル文学賞のすべて』
	ベルリンの壁関連書	留学生のプレゼントベルリンの壁と展示
	エッセイ (随筆) を読んでみませんか?	中1 総合「にちじょう」執筆
11 月	ハワイ (文化・社会問題・環境問題)	ハワイ研修にむけて (先生より依頼)
	アーサー・ホランド牧師著作	中・高講演会
	AI と教育、AI と労働 AI と未来	高1 地理探究先生より依頼
	田丸雅智さんのショートショート	中1 総合
	クリスマスの本	
11 月	図書委員 オススメ本&POP③	
	医療系進学ガイダンス向けの本	高校1年
1 月	午・馬・ウマの本	
	読書会「ほんトーク」で紹介した本	
2 月	チョコレートの本	
3 月	読書会「ほんトーク」 「桜の森の満開の下」を読む	坂口安吾や桜についての本

SNS による情報発信

年度	ツイート /累計	ツイート /年間	フォロワー /累計	フォロワー 増加数/年	投稿 /累計	投稿 /年間	フォロワー /累計	フォロワー 増加数/年
2025	1360	92	1747	187	73	73	250	250

※青=Twitter(X)、赤=Instagram

※Twitter は 2015 年運用開始。過年度統計は過去の事業報告を参照。

企画・イベント 22件

時期	行事・企画内容（ ）内は参加者
5月	有志探究クラブ「アカデミカ」：全体ミーティング（13名）
	第1回 図書館クイズ（14名）
6月	有志探究クラブ「アカデミカ」：文献調査の方法（18名）
	第1回 清教幼稚園リブラリア探検（子ども26名、大人21名、生徒ボランティア19名）
7月	第2回（図書委員作成・図書館クイズ（14名）
	有志探究クラブ「アカデミカ」：作文技術トレーニング（14名）
9月	文化祭 SG フェス 総合学習の作品展示、図書館の日常スライドショー
	有志探究クラブ「アカデミカ」：研究企画書を書く（10名）
10月	第3回 図書館クイズ（25名）
	有志探究クラブ「アカデミカ」：レファレンス資料・Web 資料の探し方（15名）
11月	有志探究クラブ「アカデミカ」：研究中間発表会（10名）
	第2回 清教幼稚園リブラリア探検（子ども9名、大人7名、生徒ボランティア8名）
12月	有志探究クラブ「アカデミカ」：大阪市立図書館見学（10名）
	第4回 図書館クイズ（24名）
1月	宗教部&図書館クリスマス会 有志コンサート、おはなし会、ボードゲーム大会
	有志探究クラブ「アカデミカ」：映画『夜と霧』をみんなで観る（13名）
2月	読書会「ほんトーク」 テーマ：最近読んだ本 高校生4名&職員2名
	第3回 清教幼稚園リブラリア探検（子ども8名、大人6名、生徒ボランティア9名）
3月	有志探究クラブ「アカデミカ」：高校生国際シンポ時無全国大会出場者の発表練習（11名）
	有志探究クラブ「アカデミカ」：高3生を送る会 映画『グッドウィルハンティング』をみんなで観る（17名）
	読書会「ほんトーク」 テーマ：坂口安吾『満開の桜の木の下』 高校生6名&職員3名
	有志探究クラブ「アカデミカ」：中高生のための探究学習・調べる学習ひろば@大阪市立中央図書館（170名）

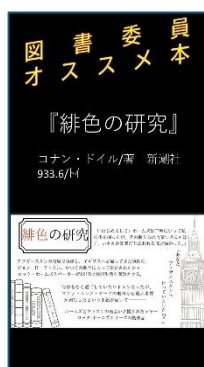
宗教部・リブラリア共催「クリスマス会」

第1部は先生と有志生徒による「のど自慢大会」をスタディホールで開催。聖書科 羽島先生のお話のあと、10組の生徒たちが歌や楽器で観客を沸かせてくれました。第2部は司書のストーリーテリング「金の腕」とボードゲーム大会を実施。今年も図書館でのボードゲーム活用の第一人者である「格闘系司書」こと、近畿大学司書 高倉暁大さんをお招きし、大いに盛り上がりました。高倉さんが多数のゲームを持参してくださり、生徒たちがルールを把握しゲームを楽しめるよう、ファシリテーターとしても活躍してくださいました。

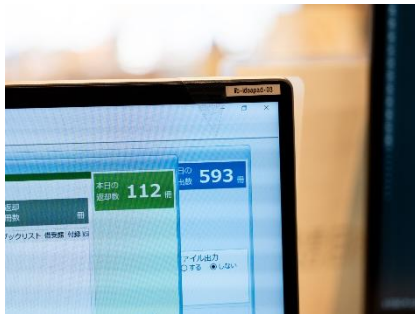
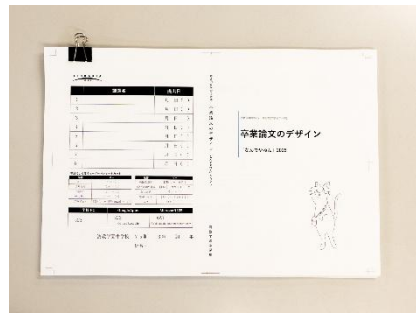


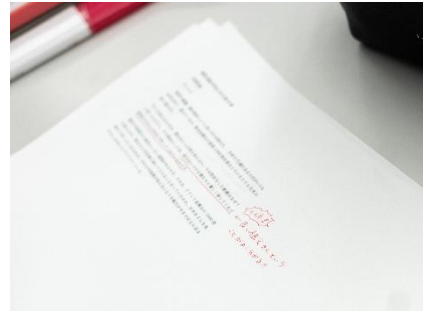
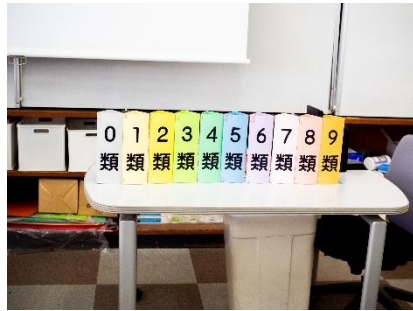
デジタルサイネージの活用

2020年よりデジタルサイネージ（電子掲示板）を、図書館出入口2か所に設置しています。イベント案内や新着図書情報、図書委員のおすすめ本を発信し続け、2025年度は約170画面を作成。広報として活用しています。ただ、使用機器が既に生産・サポート停止状態であり、保守点検等のサービスもなく、動作対応するWebブラウザも古くなってきたため、これからの運用に課題があります。

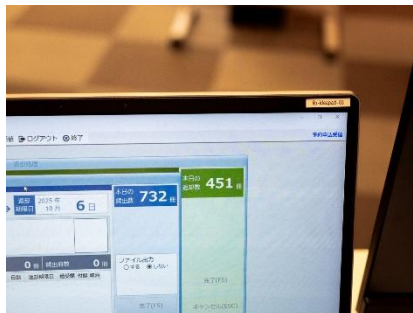


[写真集] 2025年度 図書館の日常、授業やイベントの様子 ①





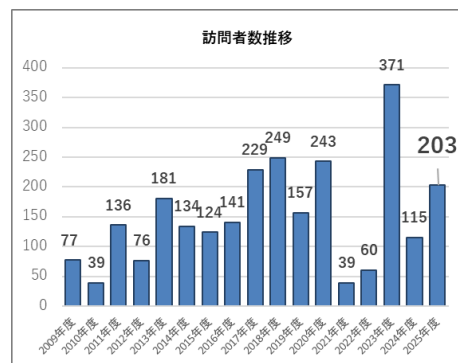
[写真集] 2025年度 図書館の日常、授業やイベントの様子 ②





訪問者 110 件 203 名

2025 年度のリブラリアへの訪問者は 110 件、203 名でした。スタッフによる各地でのセミナー登壇、「清教学園探究 Fes.」や今年から学外で主催した企画「中高生のための探究学習・調べる学習ひろば」の影響による増加です。他校教員や司書、とりわけ探究学習担当者が、清教学園における先進的な探究学習・図書館教育の視察を求めて来校しています。これにより、累計訪問者数は 2527 名となりました。



	日付	人数	所属	代表者氏名 (敬称略)	訪問目的
1	6月11日	1	済美平成中等教育学校		図書館見学・探究学習視察
2	6月13日	1	新渡戸文化中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
3	6月13日	2	コクヨ株式会社		図書館見学
4	6月14日	1	和泉高校		図書館見学・探究学習視察
5	6月24日	4	大阪府教育庁市町村教育室		図書館見学・探究学習視察
6	6月24日	2	大阪府立中央図書館協力振興課		図書館見学・研修打合せ
7	8月8日	1	滋賀県立河瀬中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
8	10月17日	2	開智中・高等学校		図書館見学・探究学習視察
9	10月20日	2	立命館大学(4回生)		学術研究フィールドワーク 図書館見学・探究学習視察
10	11月10日	1	ドルトン東京学園		図書館見学・探究学習視察
11	11月19日	2	筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類		学術研究フィールドワーク 図書館見学・探究学習視察
12	11月21日	4	城星学園小学校		図書館見学・探究学習視察
13	12月4日	2	関西学院大学		図書館見学・探究学習視察
14	12月15日	2	(株)筑摩書房		図書館見学・探究学習視察
15	12月17日	3	福井県勝山高校		図書館見学・探究学習視察
16	12月23日	1	近畿大学ビブリオシアター		イベント講師・探究学習視察
17	12月26日	3	三国丘高校		図書館見学・探究学習視察
18	2月20日	1	(株)Winttle		図書館見学・探究学習視察
19	2月28日	2	立命館大学文学部 人文学科教授・学生		学術研究フィールドワーク報告
20	3月7日	1	京都府立木津高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
21	3月7日	1	近畿大学ビブリオシアター		中高合同「探究 fes.」見学
22	3月7日	1	近畿大学附属高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
23	3月7日	1	自修館中等教育学校		中高合同「探究 fes.」見学
24	3月7日	1	自修館中等教育学校		中高合同「探究 fes.」見学
25	3月7日	1	愛光学園		中高合同「探究 fes.」見学
26	3月7日	1	愛光学園		中高合同「探究 fes.」見学
27	3月7日	1	兵庫県立飾磨工業高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
28	3月7日	1	京都府立木津高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
29	3月7日	1	京都市立蜂ヶ岡中学校		中高合同「探究 fes.」見学
30	3月7日	1	個人参加		中高合同「探究 fes.」見学
31	3月7日	1	東京都立大泉高等学校附属中学校		中高合同「探究 fes.」見学
32	3月7日	1	育英西中学校・高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
33	3月7日	1	大阪府立東高等学校		中高合同「探究 fes.」見学
34	3月7日	1	ベネッセコーポレーション清教学園担当		中高合同「探究 fes.」見学
35	3月7日	1	文教大学国際学部国際理解学科		中高合同「探究 fes.」見学
36	3月7日	1	株式会社ワイズコンサルティング		中高合同「探究 fes.」見学
37	3月7日	1	大阪府議会議員、本校元 PTA		中高合同「探究 fes.」見学
38	3月7日	1	国立病院機構大阪南医療センター		中高合同「探究 fes.」見学
39	3月7日	1	工房アロン、本校建築アドバイザー		中高合同「探究 fes.」見学
40	3月7日	1	大阪公立大学客員研究員		中高合同「探究 fes.」見学
41	3月7日	1	大阪府立生野高等学校・教頭		中高合同「探究 fes.」見学
42	3月7日	1	読売新聞東京本社		中高合同「探究 fes.」見学
43	3月7日	1	東京都立大学・准教授、本校卒業生		中高合同「探究 fes.」見学
44	3月7日	1	三井住友銀行		中高合同「探究 fes.」見学
45	3月7日	1	三井住友銀行		中高合同「探究 fes.」見学
46	3月7日	1	名古屋大学、本校 SGH 運営指導員		中高合同「探究 fes.」見学
47	3月7日	1	東京農工大学・准教授、本校評議員		中高合同「探究 fes.」見学

	日付	人数	所属	訪問目的
48	3月7日	1	河内長野市長	中高合同「探究 fes.」見学
49	3月7日	1	名古屋学院大学経済学部、本校卒業生	中高合同「探究 fes.」見学
50	3月7日	1	滝川高等学校 進路指導部部長	中高合同「探究 fes.」見学
51	3月7日	1	大阪府立東高校	中高合同「探究 fes.」見学
52	3月20日	4	(財)図書館振興財団	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
53	3月20日	1	大阪府立中央図書館	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
54	3月20日	1	五條市立図書館	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
55	3月20日	1	大阪国際高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
56	3月20日	1	新潟明訓高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
57	3月20日	1	個人参加	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
58	3月20日	1	大阪芸術大学	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
59	3月20日	7	奈良市立一条高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
60	3月20日	1	清教学園中学校 保護者	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
61	3月20日	1	同志社中高	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
62	3月20日	1	金剛高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
63	3月20日	1	渋谷中学高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
64	3月20日	1	大阪府立農芸高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
65	3月20日	1	関西学院中等部	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
66	3月20日	1	紀伊国屋書店 営業総本部 東京営業本部	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
67	3月20日	1	日本子どもの本研究会	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
68	3月20日	1	大阪大学 大学院人間科学研究科	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
69	3月20日	2	日出学園	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
70	3月20日	16	育英西高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
71	3月20日	9	清教学園中学校(生徒)	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
72	3月20日	9	清教学園高等学校(生徒)	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
73	3月20日	1	関西学院大学 大学院	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
74	3月20日	6	兵庫県立宝塚北高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
75	3月20日	1	甲陽学院中学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
76	3月20日	2	清教学園中学校 保護者	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
77	3月20日	1	個人参加	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
78	3月20日	1	播磨町立図書館	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
79	3月20日	1	大阪市学校司書	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
80	3月20日	1	和歌山県立新宮高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
81	3月20日	1	京都産業大学附属中高	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
82	3月20日	1	箕面自由学園	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
83	3月20日	1	杉並区立中高一貫教育校図書センター	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
84	3月20日	1	奈良教育大学附属中学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
85	3月20日	1	清教学園高等学校 保護者	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
86	3月20日	1	埼玉大学教育学部附属中学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
87	3月20日	1	三田学園中学校 保護者	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
88	3月20日	5	大阪府立東高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
89	3月20日	1	同志社高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
90	3月20日	1	個人参加	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
91	3月20日	1	堺東高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
92	3月20日	1	大阪市立中央図書館	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
93	3月20日	1	和歌山東高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
94	3月20日	1	開智中学校 高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
95	3月20日	1	横浜市	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
96	3月20日	1	個人参加	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
97	3月20日	1	個人参加	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
98	3月20日	1	大阪府立生野高校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
99	3月20日	1	清教学園 卒業生	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
100	3月20日	1	清教学園 卒業生	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
101	3月20日	1	大阪市立学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
102	3月20日	1	豊中市立学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
103	3月20日	1	大阪市立大庭中学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
104	3月20日	1	大阪市立学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
105	3月20日	1	学校図書館ボランティア	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
106	3月20日	1	学校司書	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
107	3月20日	3	三田学園中学校・高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
108	3月20日	6	大阪国際高等学校	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
109	3月20日	1	(株)ネットアドバンス	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
110	3月20日	16	オンライン視聴	中高生のための探究学習・調べる学習ひろば参加
110	3月27日	2	履正社高校 生徒	探究学習のための図書館利用

筑波大学・立命館大学・関西大学の学術研究調査対象としてリブラリアが協力

毎年学外から多くの訪問者が訪れるリブラリア。訪問の多くが、他校で探究学習を担当する教員や図書館司書による、授業やカリキュラムづくり、探究学習支援、学校図書館経営の参考目的でした。しかし今年度は学術研究目的での調査依頼が3件。この20年近くの間、先進的・普遍的な探究学習や図書館教育を実践してきた清教学園図書館の取り組みに、学術研究の現場からも注目が集まっています。

筑波大学からは「学校図書館による探究学習の成果物の保存と活用」をテーマに、生徒の論文の蔵書化に関するインタビュー調査を受けました。中高生の論文が毎年全員分蔵書登録され、貸出も可能となる本校の収集方針が、利用者(後輩たち)の研究にどのように資するのか、あるいは学習者本人のモチベーションにどう繋がるのかを答えました。



立命館大学からは「中等教育の探究学習における学校図書館支援のあり方」をテーマに、図書館活用が活発だったクラスと、そうでないクラスの生徒の学習実態を比較する分析が行われました。さらにアカデミカメンバーである高3生3名がインタビューを受け、自身の学習経験を語りました。本稿で2月28日に実施された、立命館大の学生による報告会では、インタビューを受けた高校生から研究に関する鋭い指摘が飛ぶなど、図書館での研究経験を経て進路を開拓した清教生ならではの時間となりました。



関西大学からは「読書感想文指導への生成AI活用の可能性」をテーマに、作文指導を長らく担当してきたリブラリアスタッフと、生成AIを研究テーマにしていた中3生徒が、生成AIを活用したアプリケーション試用に協力。開発された作文支援アプリの使用感、自身の作文や授業への影響を述べました。



探究学習が世に広がって10年近く。依然として学校図書館の豊富な蔵書や、司書のレファレンスを真に活用する実践は多くありません。その一因には、テーマ設定のイニシアチブを生徒自身が握る授業設計になっていないことがあると、これまでも本校からは発信してきました(例：山崎(2021)『どのような探究カリキュラムが学校図書館活用を促進するか』)。他方でこの10年の社会課題・グループ学習・ポスター発表が中心だった探究学習が見直され、学習テーマを生徒に委ねる学校は増えつつあります。そうしたなかで、20年近く変わらず生徒の興味関心による探究学習を支援してきたリブラリアの取り組みに、あらためて注目が集まる時期になってきたと言えるでしょう。

学外研修参加8件(開催日・主催者「研修テーマ」講演者、会場[参加者])

- ・6月12日(水)大阪私立中学校・高等学校図書館研究会 令和5年度総会および増山実氏講演会 [山根]
- ・6月10日(火)大阪府立中央図書館 国際児童文学館「講演と新刊紹介 2024年に出版された本」オンライン [山根・上河・南]
- ・8月7日(木)、8日(金)第49回近畿学校図書館研究大会 近江八幡大会 [山根]

寄稿依頼・取材依頼・出版物 9 件(発行日/著者「タイトル」掲載メディア [担当])

- ・2025 年 5 月 清教学園・高等学校『卒業論文のデザイン：なんでやねん 2026』[山崎][南]
- ・2025 年 5 月 清教学園・高等学校『語りが生まれるとき：清教学園中学校 75 期身近な魅力的な人に取材する作品集』[山崎][南]
- ・2025 年 6 月 私学教育研究所『Forword』「New Education Topics Vol.56」 「探究学習を促進する図書館活用と司書教諭の役割」[山崎][南]
- ・2025 年 6 月 「学校図書館は子どもと社会をつなぐかけはし 京都府立南山城支援学校『ほんの森』『図書館の学校』2025 年夏号 [片岡]
- ・2025 年 9 月片岡則夫「自治会と市民が育んだ『図書室』が半世紀 兵庫県川西市『大和（だいわ）自治会図書室』『図書館の学校』2025 年秋号 [片岡]
- ・2025 年 11 月 日本図書館協会『図書館雑誌』「学びの転換期に図書館はどう立ち会うか：中学生が「卒業論文」を書く探究学習の現場から」[山崎]
- ・2025 年 12 月片岡則夫「震災でも豪雨でも、くらしには読書が必要だ エファジャパン『能登を走る！ブックカフェ』『図書館の学校』2025 年冬号 [片岡]
- ・2025 年 3 月片岡則夫「読書のタネまくちいさなくるま『実況中継』久喜市移動図書館『図書館の学校』2025 年春号 [片岡]
- ・片岡『マイテーマの探し方』中学 1 年国語教科書（光村図書）に掲載。清教学園でも利用している、令和 7 年中学教科書国語 1 [教番：国語 038-72] に、『マイテーマの探し方』が短い解説付きで掲載された。p.202 の研究に関する読書ガイドの一部。



学外講演・研修登壇等 31 件 / 参加者 820 名 (開催日・主催者「講座テーマ」会場、参加数 [担当])

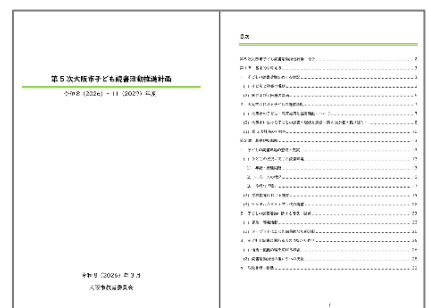
- ・4 月 23 日(水) EDIX 東京小学館ブース「まなびの四次元ポケット」 「現役高校生に訊く！探究学習のリアル」東京ビッグサイト、30 名[高 3 生徒 2 名+山崎]
- ・5 月 19 日(月) 三郷市学校読書活動推進協議会委員「図書館を使った調べる学習 進め方・審査のポイント」市保健センター分室、31 名 [片岡]
- ・5 月 24 日(土) 図書館総合展 2025 茨木市立おにクルぶっくぱーくを使った探究学習体験講座多目的室、14 名 [片岡]
- ・5 月 30 日(金)京都府立高等学校図書館協議会「探究学習を通じた読書が豊かな人生を紡ぐ」京都府立桂高等学校、60 名[山崎][上河]
- ・6 月 5 日(木) 昭島エンシス昭島市教師向け研修講座「調べる学習の第一歩」昭島エンシス、14 名 [片岡]
- ・6 月 9 日(日) 湘南白百合学園小学校湘南白百合学園小学校教職員研修会「ミニ調べる学習」湘南白百合学園、32 名 [片岡]
- ・6 月 10 日(火) TRC 研修ビデオ収録「調べる学習とコンクールと探究学習」TRC 本社 [片岡]
- ・6 月 17 日(火)東海大学山形高等学校「清教学園の探究学習『卒業論文』の紹介」オンライン、30 名 [山崎]
- ・6 月 25 日(水) 茨木市「『ことば』からはじまる楽しい調べる学習」教育センター、45 名 [片岡]
- ・6 月 29 日(日) 海老名市有馬図書館「図書館 de 調べちゃ王 スペシャル」:保護者向けレク付き有馬図書館、9 名 [片岡]
- ・7 月 6 日(日) 鴻巣市立中央図書館「大人も楽しい！調べる学習講座」鴻巣中央図書館、3 名 [片岡]
- ・7 月 13 日(日) 戸田市立図書館「君も調べものマスター！ ～図書館を使った調べる学習コンクール入門講座～」戸田市立図書館、5 名 [片岡]
- ・7 月 20 日(日) 鴻巣市立中央図書館「こども調べる学習講座」鴻巣中央図書館、3 名 [片岡]
- ・7 月 25 日(金) 大阪府立中央図書館 公立図書館と学校との合同研修 第 3 回「図書館で学ぶ探究学習を実体験！「なんでも学べる学校図書館」清教学園リブラリアの実践から」大阪府立図書館大会議室、58 名+オンライン[山崎][南]

- ・7月25日(金) 座間市あすなろ大学「マイブームを語ろう 大航海は難しくない」東地区文化センター、70名 [片岡]
- ・7月26日(土) 座間市立図書館 自由研究応援講座(発表会) 座間市立図書館、18名 [片岡]
- ・7月27日(日) 熊取町立図書館「調べ学習応援講座」熊取町立図書館、15名 [南][上河]
- ・7月31日(木) 福井県教育委員会「探究的な学び研修講座」なびあす、26名 [片岡]
- ・8月2日(土) ジャパンナレッジ school ユーザー会「生徒中心の探究学習をささえる：興味・イニシアティブが読書と執筆の活力を連れてくる」日本出版クラブ会館、40名 [片岡]
- ・8月23日(土) 熊取町立図書館「調べ学習応援講座発表」熊取町立図書館、50名 [南][上河]
- ・8月23日(土) 座間市立図書館 自由研究応援講座座間市立図書館、18名 [片岡]
- ・8月23日(土) 紀伊国屋・ネットアドバンス「ジャパンナレッジスクールセミナー2025」「なんでも学べる“教室の雰囲気”のつくり方：個々の生徒の学習過程をすくいあげる探究支援」関西大学梅田キャンパス、60名+オンライン [山崎]*
- ・9月3日(水) 大阪市「第5次大阪市子ども読書活動推進連絡会」大阪市立中央図書館 [片岡]**
- ・10月1日(水) 大阪国際中高教員研修会「自己の在り方・生き方を考える」授業のつくりかた：大阪国際中高 学校独自の探究学習プランニングに際して」大阪国際中高講堂、50名 [山崎]
- ・10月15日(水) 図書館流通センターTRC 社員研修動画「学校図書館でICT どう使う? : あって当たり前になった「文房具」」オンライン、 [山崎]
- ・10月18日(土) 「第29回図書館を使った調べる学習コンクール」一次審査 [南] [山崎]
- ・11月11日(火) TRC 館長候補研修「コンクールと探究学習」TRC 本社、26名 [片岡]
- ・11月20日(木) 土浦市立図書館 令和7年度学校図書館司書研修会「調べる学習」をサポートしよう! 土浦市立図書館、23名 [片岡]
- ・11月26日() 京都府立菟道高校「学習指導から学習支援へ：テーマ設定から考える、探究担当の「役割」再構築」50名、菟道高校視聴覚室 [山崎]
- ・11月30日(土) 「第29回図書館を使った調べる学習コンクール」全国審査会 [片岡] [山崎] [南]
- ・2月4日(水) 市町村立図書館協議会 多摩地区図書館大会 基調講演「調べる学習への支援を語ろう」都立多摩図書館、40名 [片岡]

*主催のネットアドバンス社がセミナーの様子を一般公開中。
「なんでも学べる“教室の雰囲気”のつくり方：個々の生徒の学習過程をすくいあげる探究支援」関西大学梅田キャンパス、60名+オンライン [山崎]
https://school.japanknowledge.com/movie/event_20250823.html



**学識経験者として出席、推進計画の報告と今後についてコメント。資料が公開中。
大阪市「第5次大阪市子ども読書活動推進連絡会」大阪市立中央図書館 [片岡]
https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000672/672554/02_keikaku.pdf



VI 課題

高校の探究学習カリキュラム改編で利用増、蔵書の拡充が急務

これまで18年間を通じて、個々の生徒が自身の興味にもとづいて学び、論文を書いてきたリブラリアの探究学習。一方、SDGsなど社会課題ありきのテーマ設定や、5-6名ほどのグループで探究学習の授業を実践してきた高校 GlobalStudies。清教学園図書館では後者の図書館活用の少なさが長らく課題でしたが、同授業におけるここ数年のカリキュラム改編により、大幅な利用増傾向が見られます。個々の担当者の授業設計に影響を受けるとはいえ、テーマが自由になったこと、個人研究解禁、グループ学習であってもメンバー数が3名程度にまで限られるなど少人数制に移行したのが利用増加の要因です。これはテーマ設定のイニシアチブを個々の生徒が握り始めたことを意味します。こうした動きに加え、高校有志の「アカデミカ」参加生徒の増加や、彼らの研究テーマの深まりなども影響し、探究学習の多様なテーマ設定に対応してきたリブラリアの蔵書が、これまで以上に力を発揮する状況になってきました。

しかしながら、利用増に伴う図書の足りなさも目立つようになってきました。これまでは中学3年生+α程度の人数の、自由な探究学習に対応できていたものの、高校でも本格的に個人研究解禁、少人数への移行に伴って学習者単位が大幅に増加したことから、これまでよりさらに文献のレベルも高度になり、またテーマもさらに多様になることから、蔵書の拡充が喫緊の課題です。

配架スペースの不足を補う書架の増設

一方、長らく配架スペースの不足に悩まされてきたリブラリアの状況も、毎年の事業報告で報告してきました。古い資料の廃棄や、館内の隙間スペースに書架を増築するなどその場しのぎの対応をしてきましたが、高く積みあがった書架の危険性や、利用増に伴う配架スペース不足の抜本的な解決には依然として至っていません。

2026年3月末時点で、リブラリアの資料数は81246点。統計を取り始めた18年前と比較して、フロア面積を変えず蔵書数は約4倍に。元々全国屈指の利用状況だったことに加え、上記高校生の利用増加も。こうした実態に合わせた改築がいま必要です。以前より提案してきた総合学習室の図書館化、あるいは中学職員室をラーニングコモンズに引っ越し、跡地を総合学習室にしてフロア面積を拡充する等、プラン検討の必要があります。



新書は前後2段で配架。書架に入りきらぬ資料は平積み状態



天井まで資料を配置。資料を手にとれない・選べない・危ない



2023年3月の図書館2Fの様子。仮置き状態の書庫

Teaching Assistant 導入の可能性

全国各地で個人研究・論文執筆のような実践を試みる学校が増えており、学外人材(大学院生によるTA等)との連携は一般化し始めました。アカデミカの実績の盛り上がりや、高校 GlobalStudies での個人探究活動などを鑑みれば、他校のようなTA導入を本校でも検討してよい時期でしょう。従来からの強みだった清教学園図書館の学習支援と、大学院生等による探究学習のサポートが合わされば、これまで以上の探究学習や進路開拓との結びつきが期待できます。

VII 清教学園図書館リブラリアの歩み 2002～2025

年度	主なできごと
2002年 (平成14年)	・現在地に図書館が移転。天井の高いホールを区切り、1階に図書館、2階に120席のスタディホールが生まれる。同時に、それまで図書館であった教室が、総合学習室としてリニューアル。
2007年 (平成19年)	・専任司書教諭着任、探究科創設・専任教諭着任 ・事業報告の刊行・統計資料の充実開始 ・総合学習等で年間約400時間の利用 ・図書の廃棄基準を定め、1176点を除籍
2008年 (平成20年)	・蔵書管理に「ライブマックス」、書誌情報のために「Toolli-S」を導入 ・レファレンス資料用の低書架を増設、スタディホールに書庫増設 ・レファレンス低書架を増設、文庫棚・ビデオ棚・傾斜棚を導入 ・生徒用検索端末2台を設置 ・貸出点数を2点から5点に増加
2009年 (平成21年)	・貸出点数32278点、2006年度と比較しておよそ10倍弱 ・年度当初のオリエーション開始 ・貸出点数を5点から10点に増加 ・図書購入の見計らい開始 ・雑誌棚を新設、L型低書架スタディホールに導入、総合学習室文具棚を改造 ・第13回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣奨励賞・活字文化推進会議賞を受賞
2010年 (平成22年)	・大阪府下貸出点数一位を記録 ・貸出点数を10点から20点に増加 ・第14回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣賞・日本児童図書出版協会賞を受賞 ・「NRI学生小論文コンテスト2010」にて探究科論文が大賞受賞
2011年 (平成23年)	・清教学園60周年記念事業「『探究的な学習』が賜物を生かす」開催 ・文部科学省「読書活動優秀実践校」表彰
2012年 (平成24年)	・貸出点数が増加、4万点を突破 ・「がんばった学校支援事業」補助金交付 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」受賞 ・読売新聞「教育ルネサンス」(全国版)掲載 ・中学新入生向けの「すくど文庫」はじまる
2013年 (平成25年)	・文部科学省委託助成研究が終了 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる』少年写真新聞社より出版 ・国際子ども図書館「調べものの部屋プロジェクト」への参加
2014年 (平成26年)	・第44回「学校図書館賞」大賞を受賞 ・図書館振興財団の助成決定：デジタルアーカイブ化はじまる ・スタディホールに書架を増設：収納量3000点増 ・学級文庫「すくどの本」を中学各教室に設置：「すくど文庫」3000点が読まれる
2015年 (平成27年)	・第9回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞 ・生徒作品のデジタルアーカイブ化が実現 ・第17回図書館総合展にブース出展 ・国会図書館「レファレンス協同データベース」に参加 ・ツイッターによる情報発信を開始
2016年 (平成28年)	・ポスターセッションによる中学卒業研究発表会を開催 ・ラーニングcommons開室 ・「本をつなげるプロジェクト」はじまる ・リブラリア書架・総合的学習室ロッカーを各種賞金で増設 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」9年連続入賞 ・教育課程の変更により探究科終了

2017年 (平成29年)	<ul style="list-style-type: none"> ・リブラリア訪問者数累計1100名を突破 ・清教学園幼稚園生による「リブラリア探検」開始 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる2』少年写真新聞社より出版 ・ラーニングコモンズ本格稼働 利用者約3000名 ・有志探究活動「清教アカデミカ」はじまる ・統計グラフコンクールに初入賞
2018年 (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問者新記録・累計1300名を突破 ・講談社現代新書『中高生からの論文入門』発刊 ・『探究科の記録2008～2016』まとまる ・中3卒業研究“論文形式”に進化 ・私学教育研究所委託研究決定
2019年 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響甚大：3月休館・卒業論文発表会中止 ・私学教育研究所委託研究実施 ・小学生向け「夏休み調べ学習教室」初の開催
2020年 (令和2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・10年来の課題「蔵書スペースの限界」：総合的学習室の図書館化を提案 ・文部科学省の学校図書館事例集にWeb公開される ・コロナ禍とリブラリア：開館日数減少の中で工夫続く <ul style="list-style-type: none"> ①WebOPAC構築と予約サービス開始 ②トークライブ & 動画配信企画 ③全国の県立・私立の学校図書館との連携行事「ほんトーク」中学編、高校編開催 ・図書館総合展オンラインに出展。来場者200名以上を越える
2021年 (令和3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出点数回復：清教中は公立中の5.6倍 ・卒業論文「なんでやねん」の授業から『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』生まれる ・文科省「令和3年度学校図書館の活性化に向けた調査研究」事業実施校として指定・研究・報告 ・全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」、学図研ニュースに掲載 ・図書館の配架は飽和状態一層深刻化
2022年 (令和4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・清教学園リブラリアが「Library of the Year 2022」の第二次選考対象に ・高校生への資料支援が放送大学の映像授業教材に ・卒業論文研究発表会（中学）4年ぶりの対面発表会を実施
2023年 (令和5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館総合展2023」出展、来場者数251件を達成 ・高校生年間貸出点数が好調、生徒1人当たり8.1冊に ・アカデミカ生徒の論文が「調べる学習コンクール」優秀賞・読売新聞社賞 ・中学総合学習「はじめての探究学習」単元で「第3回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞 ・訪問者35件371名の新記録・累計2000名突破 ・中学総合学習にて「魅力的な人に取材する」授業開始
2024年 (令和6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・中高合同探究学習発表会「清教学園 探究 fes.2024」を開催 ・高校生一人当たりの年間貸出がついに平均10冊を越える ・アカデミカ生徒の論文が「調べる学習コンクール」探究論文で優秀賞・読売新聞社賞 ・有志活動「清教アカデミカ」発足7年目。多様な進路への道拓く ・企画「探究大全」はじまる
2025年 (令和7年)	<ul style="list-style-type: none"> ・学外イベント中高生のための探究学習・調べる学習ひろば 開催 ・有志活動「アカデミカ」8年目。図書館での探究活動を通じた進路開拓続く ・年内入試合格により、高3生による中3卒業論文への学習支援が実現 ・アカデミカ生徒の論文が「調べる学習コンクール」優秀賞・雑誌の図書館大宅壮一文庫賞 ・アカデミカ生徒の論文が太宰治記念「津軽賞」最優秀賞 ・アカデミカ生徒が高校生国際シンポジウム出場 ・常設展示「清教学園の棚」設置

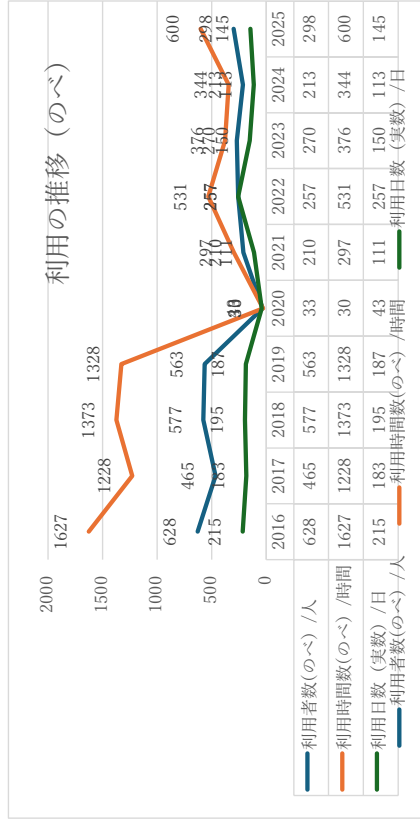
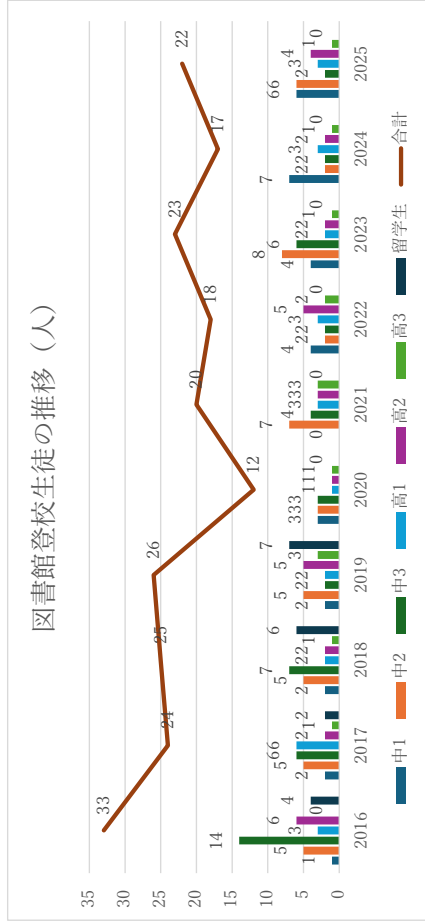
【巻末特集 1】

図書館登校生徒の記録[2016～2025年]：10年のまとめ

2025年度は、フロアワークに出ているカウンターにスタッフがいないことが多いことが多く、図書館登校生徒の正確な記録をとることができなかつた。高校のGSで活発に探究学習が行われ、授業中のレファレンスが増えたことに加え、図書館スタッフが急遽学年団に所属することになった人員減がその理由と考えられる。探究学習が活発に行われるようになると、個に応じた対応が必要になるため、図書館の業務は増加する。そこで、図書館の仕事を整理し、2025年度をもって、図書館登校生徒の記録をとることを断念することにした。

2016年に図書館登校生徒の記録を取り始めてからちょうど10年。図書館登校生徒の変遷に見る清教学園図書館リブラリアを振り返り、図書館登校生徒の記録を終了する。

※ 本校で「図書館登校」を行う生徒は、①不登校など教室に入りにくい生徒、②遅刻してきた生徒、③留学生に大別される(2020年以降は[留学生]という枠を設けず、留学生も[学年]に含める)。



学校図書館の役割

学校図書館は、「学校図書館法」で「図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要なる資料を収集し、整理し、及び保存し、これを見学又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成することを目的として設けられる学校の設備」(第二条)と定められている。学校図書館の機能は、主に読書センター、学習センター、情報センターの3つとされるが、それに加え、異年齢の子どもの同士の交流や集団から離れてひとりになれる場、生涯学習者として図書館に親しむきっかけになる場といった「居場所」としての役割を求められることも増えている。リブラリアも20年前は授業利用が少なく、中学部・中学職員室に近いという立地もあり、生徒の居場所としての機能が重宝される図書館だった。図書館スタッフは専任職員1名と非常勤職員1名で、専任職員は部活動の顧問を持ち、放課後の図書館は非常勤職員が任せられるということも珍しくなかった。そういった状況から、2007年に探究料が創設され、人員も増え、「探究的な学習」に力を入れる学校図書館へと姿を変えてきた。

図書館登校生徒とリブラリア

記録を取り始めた2016年、利用生徒数も利用時間も最高である。当時を思い返すと、図書館に登校した生徒と話しながら図書館の飾りつけをしたり、本の整理をしたりするのが日常だった。出られる授業は出席して、一息入れにまた図書館へ戻ってきたり、ベースとしての役割を果たしていたのではないかと思う。図書館の授業利用は中学総合、高校探究料が主で週に15時間(2025年度は週41時間)。授業中の利用やレファレンス、締め切りが追われる業務も少なく、図書館の業務量的にゆとりがあった。そこで、今より少しのんびりとした雰囲気の中、図書館登校の生徒とも個別に関係を構築できたと例が多くあった。

生徒によって利用のされ方が異なる図書館登校だが、次に大きな変化があったのが2020年である。4月に新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令され、本校もオンライン授業となり、図書館登校生徒も利用時間も激減した。が、文部科学省の調査によると、2024年の中学生の不登校生徒数は216,266人と過去最高となっており、本校でもコロナウイルス感染症の終息後、利用が戻る兆候を見せている。図書館への登校は、ほかの生徒の気配を感じられ、有効な刺激になるのだろうか。

一方で、「探究的学習」への社会的関心が高まり、本校においても学校図書館に求められる役割が変化している。リブラリアの現在のキャパシティでは、図書館登校生徒の心の居場所と探究学習のサポートという2つの役割を不足なく果たすことは難しい。居場所としての利用は可能だが、個別に対応し、フォローをする業務的余裕はない。時間は有限で、図書館登校生徒の対応を、資料を探している生徒よりも優先することができないからである。

しかし、目の前にいる生徒に、学校図書館としてできるだけのサービスを提供したいという思いは変わらない。2025年度の卒業礼拝式後、卒業生から「ここがあったよかった」という言葉をもたらした。図書館登校の生徒ではないが、昼休みや放課後などによく時間を過ごしていた生徒だった。図書館全体の仕事を測りながら、図書館登校生徒にどのようなアプローチができるか、現在のリブラリアとして検討を続ける。

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
中1	1	2	2	2	3	0	4	4	7	6
中2	5	5	5	5	5	3	7	2	8	6
中3	14	6	7	2	3	4	2	6	2	2
高1	3	6	2	2	1	3	3	2	3	3
高2	6	2	2	5	1	3	5	2	2	4
高3	0	1	1	3	1	3	2	1	1	1
留学生	4	2	6	7	—	—	—	—	—	—
合計	33	24	25	26	12	20	18	23	17	22

図書館登校生徒の実数 (人)

卒業記念インタビュー：高3生が清教学園図書館での学びを振り返る

2026年3月某日。高校卒業を間近に控えた3名の清教生に山崎が話を伺いました。いずれも図書館での探究活動に熱心に取り組み、進路を開拓した生徒です。インタビューでは主に、自ら問いを立てる探究学習を通じて、本との向き合い方や学習観がどう変わったか、学校図書館という場での司書や仲間との対話が、自分という人間をかたち作ることにどう影響したのかが語られました。知識が単に習得されるだけでなく、分野を横断して結びつき、自身の内でも体系化されていくプロセスに言及する3名の言葉からは、学校図書館の教育的価値を再検討するヒントが得られました。

「寄り道をすることで、物事の背景にある知識が広がり、結果として自分の教養が深まっていく。僕は、この『寄り道』こそが読書の、そして学びの醍醐味だと思うんです。」

高校 56期 さん(6年コース)
研究分野：「ハワイ史」「帝国主義政策」「観光・資本主義」
進学先：立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部

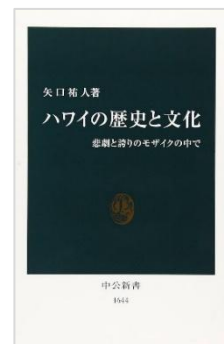


――中高6年間で、本との付き合い方は何か変わったかな

最初は本当に、自分の好きなことだけを追いかけてましたね。中学2年生の最初くらいまでは、歴史漫画とか好きな小説とか…楽しみのための読書が中心でした。物語の筋を追って「面白いな」と感じるくらいの、軽い読み方だったと思います。それが大きく変わったのは、中学2年の秋頃、卒業論文の準備が本格的に始まってからです。自分の研究を深めるために、学術的な本も手に取るようになりました。そこで本の読み方がガラッと変わったんです。「なぜこの著者は、あえてこの表現を選んだんだろう？」とか、「この章がこの本全体で果たしている役割は何だろう？」というふうに、一步踏み込んで読むようになりました。ただ文字を追うだけじゃない、深い読書に変わっていったのはその時期ですね。

――テーマにした「ハワイ」についても教えてくれる？

最初は本当に単純な動機で、旅行ガイドの『地球の歩き方』を見て「楽しそうだな」と思う程度の。パラダイスとしてのハワイしか見てなかったんです。でも、もっと知りたいと思って、矢口祐人先生の『ハワイの歴史と文化』など読み進めるうちに、ハワイが持つ負の側面が見えてきました。歴史的な背景や、土地の人々が辿ってきた過酷な道のりを知り、自分の中のハワイ像がどんどん塗り替わられていきました。誰かに強制されたわけではなく、自分が好きなハワイだからこそ、その表も裏もちゃんと知っておきたい。そんなモチベーションがあったと思います。論文にまとめる以上は誰かに読んでもらうので、ちゃんと信憑性ある情報を発信したいという責任感もありました。研究者の本を読んで、それを踏まえて自分で考えて。ただの「個人的な感想」で終わらせたくなかったんですね。



――高校からは歴史だけでなく「構造主義」とか…小難しい概念も取り入れてたやんね

そうです。山崎先生から「それ、構造主義じゃないの？」と言われたのがきっかけでした。自分がなんとなく考えていた観光業や歴史、ネイティブ・ハワイアの文化といったバラバラの要素が、どう繋がっているのか。一見、現代思想的な考え方と歴史や観光分野って離れているように見えますんですけど、実は繋がっている。それを理解する上で、図書館での「対話」がすごく大きかったです。僕が悩んでいる時に、アカデミカの他の生徒が僕の知らない研究分野で同じようなことを考えていたりして、そこからインスピレーションを受けることもありました。例えば、僕よりも先に「構造主義」とか「近代」とかの概念に気がついてた友達がいる、その子の話を聞いたり。先生を介してその考えを共有してもらったり。そんな中で、自分の中の知識がバシッと繋がったんです。こういう、異なる分野を研究する生徒どうしの「知の連鎖」みたいなものが、図書館では日常的に起きていたんですね。

――そういう探究学習を通じて得られたものって何かあるかな

ひと言で言うなら、やっぱり「楽しかった」に尽きます。でも、それは単に楽(らく)だったという

ことじゃありません。偏差値で測る勉強と違い、探究学習には正解がありません。誰かに敷かれたレールの上を歩くわけでもない。自分がどういう過程を経て、どういう結果にたどり着くのか。どんな個人的なきっかけで研究を始めて、どんな参考文献を読んで、どんなことを考えて、どんなテーマを設定して、どんなフィールドワークをするのか…全て自分の行動次第です。その過程の中で、自分が何をやりたいかが見えてきましたし、それに合わせて大学選びも逆算して考えられました。観光業界や学術研究者など、様々な大人の方々と繋がれたのも、この学習の大きな特色だと思います。



——いまのネット社会で、あえて「本」で学ぶ意味って何やろう

今の時代、タイパ（タイムパフォーマンス）やコスパが重視されますよね。ネットでキーワードを入れれば、一直線でゴール（答え）にたどり着ける。それは確かに最速の手段かもしれませんが、でも、一直線に行き過ぎると、その道の周りに散らばっている大事なものを見落としてしまうと思うんです。本での学びは、ネットに比べれば時間もかかります。でも、あえて「寄り道」しながら、ぐにゃぐにゃと曲がりながらゴールを目指すと、その途中で拾い集めたキーワードや知識が、後で思わぬ形で役に立ったりする。分野をまたいで参考文献を集めたり、「この人に会って取材したい」と思える著書の研究者に出合ったり、自分の研究テーマがどんどん変わっていったり…。寄り道が物事の背景にある知識を拡げて、教養も深まる。僕は、この「寄り道」こそが読書の、そして学びの醍醐味だと思うんです。

——そういう「寄り道」の楽しさが、くんの成長に繋がった？

そう思います。もし「寄り道」がなかったら、探究学習もここまで楽しいものにはなっていなかったはずだと思います。図書館で偶然出会った本や、たまたま居合わせた友達との会話、そういうすべての寄り道が、今の自分を形作ってます。以前の僕は、どこか周囲に流されがちでした。でも、中学・高校と学校の図書館を使い倒し、自分で問いを立てて探究する中で、「 」という一人の人間が確立されたような感覚があります。もちろん、これから大学や社会に出て、また変わっていくとは思いますが、少なくとも今の時点での自分を作り上げることができました。これからは、どんな変化球が飛んできても、自分なりの言葉や行動で対応できる、ボールをしっかりキャッチして投げ返せる、そんな自信があります。



——学校図書館という場については、何か思っていることがあるかな

まずは圧倒的な蔵書の多さですね。自分が知りたいと思った知識が、かなりの確率でそこにあるというのは、本当に恵まれていました。「こんな本が欲しい」というリクエストにも、たいがい応えてもらえましたし。そして何より、司書の先生方の存在が大きかった。山崎先生や南先生、上河先生もそうですけど、単に研究や論文執筆の支援をしてくれるだけじゃなくて、日常のことや何気ない疑問に対しても、いつも真剣に、かつ面白く話を広げてくれました。誰かがそこにいる、いつでも相談できる。その安心感があったからこそ、僕は自分の知識や世界を自由に広げられたんだと思います。カウンター越しの先生方との対話だけでなく、それぞれ研究する他の生徒がいたことも大きかったですね。研究分野が違ってても、知識はどこかで繋がって。アカデミカでの活動も大切な時間でした。



——漠然とした問いやけど、これから大学へ進む　くんにあって、この6年間はどうだった？

本当に、清教学園の図書館があって良かったなと思います。大人のガイドが外れた時、あるいは「敷かれたレール」から外れた時に、自分一人でどう立ち振る舞うのか。正解のない社会に出ていくための準備を、僕は学校の図書館という場所で、さっきも言った「寄り道」を楽しみながらさせてもらいました。自分の人生を自分でグリップしている、そんな感覚を得られたことは、僕にとって一生の財産です。学校という場所は一般的に、生徒を育てる場所ですけど、学校の図書館という空間があったからこそ、誰かに決められた成長ではない「自分なりの成長」ができたんだと感じています。ここで得た自信を胸に、新しい世界でも寄り道を楽しんでいきたいですね。

「私にとっての読書は、自分の『オリジナル』を確立するための作業でもあったんですね。本の中から自分が惹かれた言葉を選び取って、考えて、自分自身で文章を書き、そうやって得た知識を自分の中に積み重ねていく。それが少しずつ自分の『人格』の一部になっていく感覚はありました。」

高校 56 期 さん(6年コース)
研究分野：「動物倫理」「宗教・現代思想」「聖性・供儀」
進学先：筑波大学・人文文化学群



—中高6年間で、本との向き合い方に何か変化はあった？

私の場合、もともとはいわゆる「読書家」という感じでは全然なかったんですね。同級生の間で流行っているような文芸書や、物語を楽しむためのフィクションにもあまり興味が持てなくて。大きな転換点は、やっぱり中学2年後半から高校にかけての探究活動（総合的な学習の時間）だったと思います。自分の研究テーマを深めようとすると、気がついたら、哲学や思想、宗教、倫理といった、いわゆる人文科学的な本ばかりを手取るようになってました。それは単に知識を詰め込むためというより、自分の頭の中にあるモヤモヤした問いに形を与えるために、どうしても必要な過程だったんだと思います。以前は「何かを調べなきゃ」という義務感から本を開くこともありましたが、次第にそれ自体が目的になっていったというか。読書そのものが自分の思考を広げてくれる感覚が楽しくなっていったんです。流行りの本は相変わらず読まないんですが、自分が必要とする分野、興味のある分野については、かなり深く潜り込んでいくような読み方になっていきました。

—研究のテーマは「動物倫理」や「宗教学」やったね。そのテーマに辿り着いたきっかけは？

中学の後半から高校にかけて、自分の中にずっとあった素朴な違和感があったんです。例えば、「道端の雑草は平気で踏み潰すのに、なぜ花壇に咲いている綺麗な花は踏まないのか」とか、「犬は家族のように可愛がってペットにするのに、なぜ豚は家畜として当たり前のように食べるのか」といったことです。人間が他の生命に対して引いている「境界線」や、その時々で使い分けている倫理観のズレは一体何によって決まるのか、ということが知りたかった。でも、身近にある一般的な本や、ネットを少し調べたくらいでは、納得のいく答えは見つかりませんでした。書かれていることが自分の問いと、どこか微妙にズレている気がして。

そんな時に山崎先生から、「それはもっとメタな視点、つまり宗教学や倫理学の視点から見ないとわからないんじゃない」と言われて。それが私にとっての「入り口」になりました。過去に読んだ小説のいち場面や、学校の授業で聞いた断片的な知識、それに日常のふとした経験が、宗教や倫理というフィルターを通すことで、突然一つの大きな問いとして形を成し始めたんです。

—紹介しておきながら…そういう本ってちょっと難しいと思うんやけど

最初は確かに難しかったです。でも、研究を進めるうちに、単に「勉強して分かった」というのとは違う、もっと根源的な喜びを感じるようになりました。特に衝撃的だったのは、村瀬学さんの『「食べる」思想：人が食うもの・神が食うもの』にある概念図を見た時でした。それまで私の心の中にイメージとしてはあったけれど、うまく言葉にできなかった「何か」が、その図を見た瞬間に「これだ！」とピタッとはまったんです。自分の内側にあった形のない思考が、外の世界にある既存の知恵と結びついた瞬間、鳥肌が立つような感覚がありました。バラバラだったパズルのピースが一気に組み上がるような体験で、その感覚を味わってしまうと、あとは勝手に探究が進んでいく。自分の考えを裏付けてくれる言葉や、逆に自分の考えを根底から揺さぶる理論に出会うたびに、世界の見え方がどんどん変わっていく。あのワクワクする感じは、今でも忘れられません。



—頭の中で知識が体系化されて、つながっていく感じ？

そうですね。本を読んでいると、Aという本に書いてあることと、Bという本の内容が、自分の中で勝手につながっていくんです。「知識のネットワーク」みたいな。これが自分の中で広がっていくのが楽しくて。もちろん、一つの理論を何にでも当てはめて一般化しすぎるのは危険だという自覚はありま

す。でも、自分なりに世界を説明するための「型」というか、一つの「体系」を構築していくプロセスが面白かった。テーマにした「宗教」というのも、ある意味では世界に対する理屈付けや理由付けの究極形ですね。先達が考えたそうした思想体系に触れることで、自分なりの世界の捉え方が定まっていたように思います。一つひとつの知識はただの点に過ぎないけれど、それらが結びついて線になり、面になり、立体的な「体系」として立ち上がってくる。そういう、自分なりの理屈で世界を表現できるのではないかという手応えは、この6年間で得られた大きな収穫でした。

——読書が自分の人格みたいなものを形成した感覚ってある？

私にとっての読書は、自分の「オリジナル」を確立するための作業でもあったんですね。本の中から自分が惹かれた言葉を選び取って、考えて、自分自身で文章を書き、そうやって得た知識を自分の中に積み重ねていく。それが少しずつ自分の「人格」の一部になっていく感覚はありました。他の人からは「ひねくれている」と言われるかもしれないけれど、自分だけの視点や、自分なりの理屈で世界を見ることができるようになったことは、私にとってすごく重要なことです。他者の思想を借りながらも、それを単なる知識としてではなく、自分の血肉にしていく。そうすることで、一人の人間としての人格が形作られていったんだと思います。大学や社会という広い世界に出ていくとき、自分の中にこういう、しっかりとした「芯」があることは、大きな自信になります。自分が何に興味を持ち、何をよしとするのか。読書を通じた探究活動でそれを突き詰められたことは、これからの人生の大きな財産になると思います。



——学校図書館という「場所」は、どんな存在だった？

図書館は、私にとって「知識のネットワーク」が自然と流れてくる場所でした。自分からガツガツと情報を獲りに行くというよりは、そこに身を置いているだけで、先生方との何気ない会話や、ふと目に留まった棚の本から、新しい世界への扉が開いていくような感覚です。私はそれほど積極的なタイプではないけれど、そうやって自然に情報が流れてくる環境があったからこそ、無理なく自分の世界を広げることができました。アカデミカに入ってみたのもそうしたよさがありました。いわば「心地よい受動性」とでも言うんでしょうか。自分から動くきっかけを、さりげなく提供してくれる場所だったんです。自分自身を実験的に試せる場所でもあった気がします。先生から「こういうのもあるよ」と勧められたものに対して「あ、やってみようかな」「読んでみようかな」と思えるくらいの柔軟性は持っていたと思って。そうやって提示された環境にちょっと飛び込んでみることで、思わぬ方向に道が拓ける。そういう偶然の出会いや流れがあるのが、この学校の図書館だったと思います。



——これからの学校図書館に期待することとか、後輩に何かメッセージがあれば

生徒の目線から言えば、やっぱり「絶妙な距離感で見守ってくれる存在」が一番大きいと思います。司書の先生が、今の私の状況を見て「今は声をかけてみよう」とか「今はしんどそうだからそっとしておこう」と、押し付けがましくない形で寄り添ってくれること。「この環境なら、自分の好きなように動いても大丈夫だ」という安心感があれば、生徒は勝手に、でも一生懸命に頑張るものだと思います。学校という枠組みの中にありながら、決められた正解や成長の在り方を押し付けるのではなく、一人ひとりの生徒が自分なりの問いを見つけ、それに向き合える環境を作ってもらったんですね。私自身、この図書館という場所があったからこそ、自分なりのペースで成長することができました。後輩たちにもぜひ、この図書館で、自分だけの賜物を見つけてほしいなと思います。押ししてみたり引いてみたり、そういう自由なやり取りの中でこそ、本当の意味での「自分」が見つかるはずですから。



「図書館は『ハブ』みたいな場所でした。カウンターに先生がいて、全然違う研究をしてる友達がいる、行けば誰かと喋れる。『あ、その問題の構造、私の研究と似てる!』って。お互いに違うことをやってるけど、根っこの部分では、緩やかに深い繋がりのある空間でした。」

高校 56期 さん(3年コース)
研究分野:「女子サッカー」「スポーツ経営」「ジェンダー」
進学先: 関西大学商学部



——もうすぐ卒業やね。高校3年間の学びを振り返って、率直な感想を聞かせてもらえたら

この3年間、清教学園での生活を振り返ってみて一番に思いうかぶのが、やっぱり図書館という場所で。司書の先生、それにそこに集まる友達と付き合ってきたことが、何より面白かったですね。自分自身、この3年間ですごく変わったという自覚があって。考え方というか、物事の捉え方が根本から変わった感覚があって。で、その変化の中心にあったのが、間違いなく図書館という場所でした。もしここに来てなかったら、今の自分はいないだろうな、と思うくらいに大きな存在です。

——なんか寝めすぎやけど…(笑) 研究テーマに「女子サッカー」を選んだ理由はなんでやっけ

自分自身がプレイヤーとしてずっと取り組んできたから、というのがあります。でも、ただ「好きだから」という理由だけじゃないんです。女子選手としてサッカーをプレーしていく中で、挫折というか、いろいろと思悩む時期があったんですね。年齢を経るごとに女子選手がプレーできる環境が減っていく中で、「なんでこんなにモヤモヤするんだろう」という、言葉にできないしんどさがずっとあって。そんな時に図書館で「それをテーマに研究してみたら?」と言われて。自分が抱えていたモヤモヤの正体を突き止めてみたいと思ったのが、動機でした。それまでは、ただプレイヤーとしてボールを追いかけるか、ファンとして観戦して終わるかだけだったんです。でも、一度それを研究という対象にしてみたら、全然違う景色が見えてきました。

——研究を通じて、その「モヤモヤ」は解消されたのかな

最近流行りの言葉ですけど…「言語化された」という感覚が一番しっくりきます。自分がなんとなく感じていた悩みとか違和感が、実は自分個人の問題だけじゃなくて、もっと大きな「構造」の問題だったんだって気づけたんです。女子サッカーを取り巻く環境とか、ジェンダーの問題、あるいはスポーツ経営の視点とか。いろいろな分野の本を読む中で、私のモヤモヤの背景が客観的に見えてきました。これまでは「自分がダメだからだ」と思っていたことが、実は社会的な構造によって引き起こされている側面もある。それが分かった瞬間に、すごく視界が開けた気がしたんですよ。

——いろんな分野の参考文献から、自分なりの答えを導き出そうとしてたよね

そうなんです。何か一冊の「正解」が書いてある本や、ネット記事を読んで全てが解決した、というわけではないんですよ。もちろん申恩真先生の『女子サッカー選手のエスノグラフィ』とか、自分と同じテーマそのものを扱う本との出会いもありました。でも一方で、スポーツ経営の本を読んだり、社会学のジェンダー研究の本を読んだり、あるいは全然違う分野の本を手にとってみたり…。そうやっていろんな分野の本を読み進める中で、自分の中にあつた経験と、本に書いてある知識が少しずつ結びついていったんです。自分の経験、本の中身、そしてまた別の分野の本。それらが結びついて、「構造化された問題」が自分なりの言葉で言語化されていく。本という媒体や図書館という場所じゃないとできなかったことだなと思います。



——なんか他の生徒も似たこと言ってたな…。「知識の結びつき」はどんなふう形成された?

一つの知識が「点」としてあるんじゃないで、それらが線で結ばれていく感覚ですね。例えば、女子サッカーの問題を考えている時に読んだ本の内容が、「あれ? これって以前に別のところで学んだあの問題と同じ構造じゃないか?」って気づく瞬間があるんです。全く違う分野の話なのに、根っこの部分の構造が似ている。そういう抽象度の高い繋がりが見えてくるのが、すごく快感でした。それは本を読

むだけじゃなくて、誰かと喋ることでさらに深まりました。山崎先生や南先生、上河先生、あるいは同じように図書館で研究している友達と、「今こういうこと考えてるんだけど」って共有する。そうすると、相手から「それってこういうことじゃない？」って新しい視点が返ってきて、また新しい知識と結びつく。この共有の場があったことが、私の知識の結びつきが広がる大きな助けになりました。

——自分でよく言っていたけど、もともと本は読まなかったんやんね

そうです(笑) 中学までは全然本を読まないタイプだったんです。家にもそんなに本がある環境じゃなかったし。学校で朝の読書の時間とかもありましたけど、正直、本を手にとって読むという行為自体が、清教学園に入るまではほとんどなかったと言っていいくらいです。なんでこれほど本を読むようになったのか…それはやっぱり「知りたい」という純粋な目的ができたからだと思います。それまでは「大人が読めって言うから」とか、なんとなくの義務感で読まされる感じがずっとあったんですけど、図書館で女子サッカーの研究をやってみて、進むにつれて、次はこの分野の知識が必要だ、これを知りたい、っていうのが自分の中で増えていったんです。それで、そうした読書はすごく楽しかったし、研究ノートにまとめたり、読んだことや考えたことを先生と喋るのも楽しかった。



——興味のあるテーマで研究することが、君の読書の原動力になった？

まさにそうです。疑問が湧くから本を読む、本を読んだらまた新しい疑問が生まれる。その繰り返しで、どんどん読む本が増えていきました。ノートの書き方なんかも、最初はバラバラでしたけど、だんだん「読書→疑問→読書」というサイクルができてきて、YouTubeとかの動画も面白いし、分かりやすいものはたくさんあります。でも、自分の研究を深めていく上では、本という媒体の方が、じっくり自分のペースで思考を深められた気がします。

——学校図書館という「場所」は君にとってどんな空間だった？

コミュニティが生まれる「ハブ」みたいな場所でした。単に本がある場所というだけじゃなくて、カウンターに先生がいて、そこに行けば誰かと喋れる。部活や課題で忙しい生徒もいましたけど、その合間に図書館に寄って、全然違うことを研究している友達と喋るのが、すごく良い刺激になってました。私は女子サッカーの研究をしていたけど、他の子は全然違う話をしていたりする。でも、喋ってみると「あ、その問題の構造、私の研究と似てる！」って共通点が見つかったりして。お互いに違うことをやっているんだけど、根っこの部分では繋がっている。緩やかだけど深い繋がりがある空間でした。



——誘導質問みたいやけど…司書教諭や司書の存在は、どんな助けになった？

先生たちは、いつも絶妙なタイミングで新しい視点を投げてくださいました。私が「こういうことに興味があるんです」と言えば、すぐに「それならこの本が新しいよ」って出してくれたり。しばらくあとで「あの問題についてはどうなった？」って気にかけてくれたり。一人で研究していると、どうしても行き詰まっちゃうことがあるんですよね。でも、誰かに何かを聞かれる、自分の考えを喋る、それだけで頭の中が整理されていた感じがあります。先生たちがカウンターにいて、いつでも話し相手になってくれたこと。それが、私の探究活動を支える安心感になっていました。

——これからの学校の図書館に期待することってある？

生徒の立場から言わせてもらおうと、生徒って自分でも気づいていない「知りたいこと」を心の奥に隠し持っている気がするんです。それをうまく引き出してくれる存在が図書館にいてくれると、すごく心強い。「今、何に興味があるの？」とか「これについてどう思う？」とか、何気ない会話の中から私たちの関心を掘り起こしてくれる。そういう聞き方をしてくれると、生徒は自然と自分のことを話し始めるし、そこから新しい学びが始まっていくんだと思います。



LIBRARIA

SEIKYO

総合図書館 清教学園リブラリア
2025 年度事業報告

発行日：2026 年 5 月 14 日
著者：清教学園中・高等学校 図書館教育
印刷・製本：清教キャンパス
連絡先：

〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

TEL 0721-62-6828



本報告書はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用しています。クレジット（著者、発行者）を表示し、かつ内容を改変しないことを条件に、非営利目的での利用（転載、複製、印刷、共有）が行えます。ご不明な点は清教学園図書館までお問い合わせ下さい。